



アンテナ・伝播研究専門委員会 2019 年度上期専門委員会 議題

アンテナ・伝播研究専門委員会  
委員長 陳 強

日時： 2019 年 6 月 20 日 (木) 9:00~11:30

場所： 機械振興会館 地下 3 階 2 号室

議題：

- (0) 委員長挨拶, 新任執行部自己紹介
- (1) 前回 (2018 年下期) 議事録の確認 (深沢) 【AP2019-1-1】
- (2) 2019 年度専門委員会・顧問会・リエゾンメンバの構成  
新任専門委員、LM の自己紹介 (深沢) 【AP2019-1-2】
- (3) 2019 年度 AP 研各種委員会体制 (陳→深沢) 【AP2019-1-3】
- (4) 2019 年度 AP 研活動方針 (陳→深沢) 【AP2019-1-4】
- (5) 審議事項
  - (a) 2019 年ソサイエティ大会及び  
2020 年総合大会シンポジウム講演の計画 (高橋) 【AP2019-1-5】
  - (b) 2019 年度自由裁量ベース活性化資金の活用計画 (深沢) 【AP2019-1-6】
  - (c) 2019 年度 AP 研第一種研究会予算案 (深沢) 【AP2019-1-7】
  - (d) 2019 年度 AP 研第一種研究会実施計画及び進捗 (深沢) 【AP2019-1-8】
  - (e) 2020 年度 AP 研第一種研究会実施計画案 (有馬) 【AP2019-1-9】
  - (f) AP 研第一種研究会長期計画 (有馬) 【AP2019-1-10】
  - (g) 2019 年度第二種研究会 AMT 研実施計画及び進捗 (笹森) 【AP2019-1-11】
  - (h) 2020 年度電波伝搬コンテスト実施計画案(今井) 【AP2019-1-12】
- (6) 報告事項
  - (a) 2018 年度第一種研究会決算報告 (木村) 【AP2019-1-13】
  - (b) 通ソ研専活性化企画(申請ベース資金)提案結果報告(深沢) 【AP2019-1-14】
  - (c) AP 研 WS 常設委員会報告 (山田) 【AP2019-1-15】
  - (d) AP 研論文委員会報告 (高橋) 【AP2019-1-16】
  - (e) AP 研アンテナの歴史委員会報告 (森下) 【AP2019-1-17】
  - (f) AP 研表彰委員会報告 (藤元) 【AP2019-1-18】
  - (g) AP 研国際委員会報告 (広川) 【AP2019-1-19】
  - (h) 研専運営会議報告 (陳) 【AP2019-1-20】
  - (i) ISAP2020 実行委員会報告 (新井→西森, 道下) 【AP2019-1-21】
  - (j) ISAP 国際会議委員会報告 (新井→高橋) 【AP2019-1-22】



- (k) チュートリアルWS 実施報告 (木村、深沢) 【AP2019-1-23】
- (7) 情報共有・意見交換
  - (a) 研究会、大会活性化のための施策について (深沢) 【AP2019-1-24】
  - (b) 伝搬特性データベース化に向けた活動 (今井) 【AP2019-1-25】
- (8) 資料のみの報告事項
  - (a) 2018 年度第一種研究会運営報告 (木村、深沢) 【AP2019-1-26】
  - (b) 2018 年度 AP 研第一種研究会 Web 配信状況 (飴谷, 深沢) 【AP2019-1-27】
  - (c) 2018 年度第二種研究会 AMT 研運営報告 (笹森) 【AP2019-1-28】
- (9) その他

2018年12月21日

アンテナ・伝播研究専門委員会 2018年度下期専門委員会 議事録

日時：2018年12月13日（木）9:00～11:30

場所：機械振興会館 地下3F 2号室

出席者：（執行部）広川、山口（良）、木村〔司会〕、飴谷、深沢〔記録〕

（専門委員）有馬、今井、市坪、岩井、大島、大塚、吉敷、桑原、榊原、塩見、高橋

（徹）、長、陳、西森、野口、日景、藤本、本間、松沢、三浦、道下、山ヶ城、山田

（寛）、芳野

（敬称略）

議事【資料番号】：

（0）委員長挨拶

広川委員長より挨拶があった。費用の使い方、AP研各委員の負荷低減策について議論したいとのコメントがあった。

（1）前回（2018年度上期）議事録の確認

【AP2018-2-1】

木村幹事より、資料に基づき、2018年度上期専門委員会の議事録の確認が行われ、内容について承認された。

（2）2018年度専門委員会・顧問会・リエゾンメンバの構成

【AP2018-2-2】

木村幹事より、資料に基づき、2018年度専門委員会・顧問会・リエゾンメンバの構成について説明があった。名簿修正などあれば連絡するよう依頼した。今後、専門委員退任者の後任を今後考える必要がある旨のコメントがあった。内容について承認された。

（3）審議事項

(a)2019年度AP研執行部体制

【AP2018-2-3】

木村幹事より、資料に基づき、2019年度AP研執行部体制について説明があった。選挙により委員長が選出され、次期委員長候補からの推薦により次期執行部案が提案された旨の説明があった。内容について承認された。

(b)2019年度AP研各種委員会体制

【AP2018-2-4】

木村幹事より、資料に基づき、2019年度AP研各種委員会委員長案について説明があった。内容について承認された。

(c)2019年度ソサイエティ大会企画講演の計画

【AP2018-2-5】

高橋（徹）論文委員長より、資料に基づき、2019年度ソサイエティ大会企画講演の計画について説明があった。IoTに向けた小形アンテナ設計技術、5Gに向けた基地局・端末

アンテナの試験・測定技術の最新動向、の2件が提案された。内容について承認された。

(d)伝搬モデリングコンペティション選奨規程 【AP2018-2-6】

今井委員より、資料に基づき、2019年度信学総大における伝搬モデリングコンペティションに関する選奨規程について提案があった。各委員から以下のコメントがあった。

山口（良）：“伝搬モデリングコンペティション”を意味する名称が複数あり、わかりづらいので統一してほしい。

高橋（徹）：優秀賞と特別賞の違いを明確化したほうが良い。

⇒今井：伝搬モデリングコンペティションのホームページに記載されている。

内容について承認された。

(e)2019年度AP研第一種研究会実施計画案 【AP2018-2-7】

深沢幹事より、資料に基づき、2019年度AP研第一種研究会実施計画案について説明があった。各委員から以下のコメントがあった。

広川：AWAPの日程は4/24,25である。

榊原：AWAPは小規模で実施する予定であり、4月の研究会休会の代わりにAWAPに求めることは困難となる可能性がある。

⇒深沢：4月の研究会で発表できなかった分は5月研究会に投稿を促せば問題ないと考える

内容について承認された。

(f)AP研第一種研究会長期計画 【AP2018-2-8】

深沢幹事より、資料に基づき、AP研第一種研究会長期計画について説明があった。内容について承認された。

(g)2019年度第二種研究会AMT研実施計画 【AP2018-2-9】

飴谷AMT研幹事より、資料に基づき、2019年度第二種研究会AMT研実施計画について説明があった。各委員から以下のコメントがあった。

木村：USBには今年度の内容を含めるのか？

⇒飴谷：現在議論中である。

内容について承認された。

(h)2018 年度 AP 研予算執行状況 【AP2018-2-10】

木村幹事より、資料に基づき、2018 年度 AP 研予算執行状況について説明があった。内容について承認された。

(i)AP 研チュートリアル特集講演会実施計画案 【AP2018-2-11】

木村幹事より、資料に基づき、AP 研チュートリアル特集講演会実施計画案について説明があった。また、広川委員長より、他分野の方々との交流を促進する意図もあり、他研専にも声掛けしたい旨の補足があった。各委員から以下のコメントがあった。

榊原：懇親会代は出せるのか？

⇒木村：出すことは可能。

有馬：会場が大きいが人集めが可能か？チュートリアルをそのままやるのでは集客面で懸念があるので、何か工夫が必要と思われる。

⇒山口（良）：全体のテーマを設定して、チュートリアルを少しアレンジしてもらう予定である。ワークショップとチュートリアルの間くらいのを、執行部で練って実施する予定である。

西森：無料にするのはよい。参加者に信学会会員への登録、AP 研年間登録をお勧めするのもよい。

長：信学会会員以外も無料か？

⇒木村：まだ決めていない。今後考える。

道下：通ソ主催（たとえば通ソ主催の二種研）としてはどうか？通ソ主催とすれば横通しがやりやすい。1 週間のメール審議で対応可能である。

内容について承認された。

(j)2019 年度 AP 研予算案 【AP2018-2-12】

深沢幹事より、資料に基づき、2019 年度 AP 研予算案について説明があった。内容について承認された。

(4) 意見聴取事項

(a)2018 年度 AP 研第一種研究会 Web 配信状況 【AP2018-2-13】

飴谷幹事補佐より、資料に基づき、2018 年度 AP 研第一種研究会 Web 配信状況について説明があった。一般講演に対する聴講は低調であるがチュートリアル講演は比較的好調である旨、配信の切り替えが頻繁であり負荷が高い旨の報告があった。広川委員長よ

り、負荷低減策や配信視聴率向上策を議論したい旨の補足説明があった。各委員から以下のコメントがあった。

高橋（徹）：講演者が配信を不可とする理由は何か？

⇒ 鮎谷：理由はわかっていない。

西森：配信すべき発表を固められるとやりやすい。申込みの際にアンケートしてはどうか？

有馬：配信システムはもっと使いやすいものがあると思われる。

長：学生アルバイトの作業にまで落としこめると良い。

山田（寛）：プログラムに Web 配信あり／なしを記載できれば視聴率を向上できるとされる。

山口（良）：チュートリアルで配信不可の例はあるか？

⇒ 鮎谷：全件は把握していないが、無いと思う。

今井：Web 配信の宣伝を AP-NET に流してはどうか？

高橋（徹）：期間限定で無料お試しキャンペーンを実施してはどうか？

広川：AP 研のホームページを活用して PR してはどうか？

#### （5）報告事項

(a) アンテナ・伝搬再編集号 2018 年版・大会講演論文集

「アンテナ・伝播」USB アーカイブ 2018 提案結果報告 【AP2018-2-14】

木村幹事より、資料に基づき、アンテナ・伝搬再編集号 2018 年版・大会講演論文集

「アンテナ・伝播」USB アーカイブ 2018 提案結果報告について説明があった。アンテナ・伝搬再編集号については次年度よりサービス委員会の承認が必要となる旨、掲載件数に応じて値付けするようサービス委員会よりコメントがあった旨、大会講演論文集については今回が最後として承認された経緯などが紹介された。各委員から以下のコメントがあった。

高橋（徹）：来年度のサービス委員会への説明として、販売先を通ソ限定とすることを理由にして現在の販売方式を推してはどうか（件数に応じた値付けをしない）？

山田（寛）：他ソサイエティには販売しない、販売する場合には追加費用を上乗せする、などの対策を立ててはどうか？

(b) 通ソ研専活性化企画（申請ベース資金）追加提案結果報告 【AP2018-2-15】

木村幹事より、資料に基づき、通ソ研専活性化企画（申請ベース資金）追加提案結果報告(2 回分)について説明があった。各委員から以下のコメントがあった。

道下：来年度の申請ベース資金は増えることが予想される

(c)今後の申請ベース活性化資金提案 【AP2018-2-16】

深沢幹事より、資料に基づき、今後の申請ベース活性化資金提案について説明があった。各委員から以下のコメントがあった。

山田（寛）：案4（若手研究者合宿による研究スキル向上）に関連して、IEEEは20名ほど泊まり込みで実施しているが、合宿の開催場所の確保が困難になりつつある。

(d)AP研WS常設委員会報告 【AP2018-2-17】

山田（寛）常設委員長より、資料に基づき、AP研WS常設委員会報告があった。常設委員会内で、再開催（地方開催）で事務の方にかかる交通費、宿泊費を負担してはどうかという意見がある旨の報告があった。各委員から以下のコメントがあった。

陳：交通費はどれくらいの額を想定しているのか？

⇒山田（寛）：最大で3～4万円を想定している

⇒陳：いままで研究会向けには、宿泊費、交通費を出していない。たとえば、へき地で開催する研究会のバイトなどにも通じる議題なので、常設委員会だけでなく、AP研全体として議論すべき。

木村：研究会では旅費規程はあるが、ほとんど実施されていない。

高橋（徹）：現在の旅費規程は大学等の非営利団体所属者が委員会に参加する場合のみを対象としている。この範囲を広げるように改定してはどうか？

⇒陳：事務方と委員会参加者とでは対象が異なるので別な議論が必要。

これらの議論はAP研執行部を含め、継続的に議論していくこととした。

(e)AP研論文委員会報告 【AP2018-2-18】

高橋（徹）論文委員長より、資料に基づき、AP研論文委員会報告について説明があった。

ComEXの大会特集は別途進められているためAP研特集は時期を再考する旨、19年総大の5GDayの件等について報告があった。

(f)AP研アンテナの歴史委員会報告 【AP2018-2-19】

長歴史委員長より、資料に基づき、AP研アンテナの歴史委員会報告について説明があった。委員は2期4年の任期を基本とする旨、HPの更新の件について説明があった。

(g)AP研表彰委員会報告 【AP2018-2-20】

岩井表彰委員長より、資料に基づき、AP 研表彰委員会報告について説明があった。表彰ガイドラインの改定に関する説明、下期受賞者の紹介、AP 研特別功労賞の設立を検討中である旨について説明があった。

(h)AP 研国際委員会報告 【AP2018-2-21】

榊原国際委員長より、資料に基づき、AP 研国際委員会報告について説明があった。AP 研二種研国際会議の目的（アジアにおける ISAP の開催できる国を増やす）、それに対応した海外委員（ディン先生）の就任について説明があった。各委員から以下のコメントがあった。

榊原：2019/9 の iWEM が AP 研と重なる件について AP 研で日程調整できないか？

⇒深沢：会場となる宇宙研の日程に自由度がないため、このままとさせてほしい

(i)研専運営会議報告 【AP2018-2-22】

山口副委員長より、資料に基づき、研専運営会議報告があった。19 年度の AP 研年間登録料は 6,480 円で決定した旨、年間 12,000 円で全研専の年間登録が可能なオプションが別途検討されている旨の報告があった。各委員から以下のコメントがあった。

山田（寛）：全研専年間登録者は技報 PDF のダウンロードできるのか？

⇒山口（良）：できるようになると思われる

高橋（徹）：財務的に成り立つのか？

⇒山口（良）：情報・通信ソサイエティでは成り立っている

⇒道下：通ソでは財務シミュレーションはまだできていない

山田（寛）：技報 PDF ダウンロードの対象研専を限定してはどうか？研専を 3 つくらい登録して技報 PDF ダウンロードはその研専に限定してはどうか？

道下：通ソの中で、費用については見直す必要性が議論されている。持ち越しの議論となる可能性が高い。

広川：財務のシミュレーションはしっかり実施してほしい。

(j)ISAP2020 実行委員会報告 【資料なし】

西森 ISAP2020 幹事より、口頭にて財務状況が固まりつつあるとの状況報告があった。

(k)ISAP 国際会議委員会報告 【AP2018-2-24】

高橋 ISAP 国際会議委員会幹事より、資料に基づき、ISAP 国際会議委員会報告について説明があった。信学会内における国際会議コンテンツのアーカイブ収録の議論において、協賛の場合にも収録が原則となっている点は要注意である旨が報告された。アーカイブ



収録に関しては 5 年間の移行期間が設けられており議論が継続される旨、ISAP 国際会議委員会も討議のメンバーである旨が報告された。また、ISAP アーカイブサーバーを農工大から信学会サーバへ移行した旨、今後の ISAP 計画について説明があった。

(6) 資料のみの報告事項

(a)2018 年度 AP 研第一種研究会運営報告 【AP2018-2-25】

木村幹事より、資料に基づき、2018 年度 AP 研第一種研究会運営報告があった。例年と同程度の 200 件を予定しているとのことであった。

(b)2018 年度第二種研究会 AMT 研運営報告 【AP2018-2-26】

飴谷 AMT 幹事より、資料に基づき、2018 年度第二種研究会 AMT 研運営報告があった。

(7) その他

2018 年度専門委員退任者の挨拶

退任者から挨拶があった。専門委員会欠席者に関しては木村幹事より紹介があった。

以上

区分	氏名	所属 〒 所在地	TEL E-mail	任期 ～まで	
1	専門委員長 陳 強	東北大学大学院工学研究科 通信工学専攻 〒980-8579 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-6-05	022-795-7097 cheng@ecei.tohoku.ac.jp	21.5	新任
2	副委員長 黒川 悟	産業技術総合研究所 計量標準総合センター 物理計測標準研究部門 〒305-8568 茨城県つくば市梅園1-1-1 中央第3事業所 3-1-312	029-861-5148 satoru-kurokawa@aist.go.jp	21.5	新任
3	幹事 深沢 徹	三菱電機(株) 情報技術総合研究所アンテナ技術部 〒247-8501 神奈川県鎌倉市大船5-1-1	0467-41-2533 Fukasawa.Toru@dr.mitsubishielectric.co.jp	20.5	
4	幹事 有馬 卓司	東京農工大学 工学部電気電子工学科 〒184-8588 東京都小金井市中町2-24-16	042-388-7441 t-arima@cc.tuat.ac.jp	21.5	新任
5	幹事補佐 飴谷 充隆	産業技術総合研究所 物理計測標準研究部門電磁界標準研究グループ 〒305-8563 茨城県つくば市梅園1-1-1 中央第3事業所 3-1-312	029-861-4144 m.ameya@aist.go.jp	20.5	
6	専門委員 市坪 信一	九州工業大学 大学院工学研究院電気電子工学研究系 〒804-8550 福岡県北九州市戸畑区仙水町1-1	093-884-3280 ichitsubo@m.ieice.org	21.5	継続
7	専門委員 袁 巧微 エンチャオウェイ	仙台高等専門学校 情報電子システム専攻科 〒989-3128 宮城県仙台市青葉区愛子中央4-16-1	022-391-5561 qwuyan@sendai-nct.ac.jp	21.5	継続
8	専門委員 大島 一郎	電気興業(株) 技術開発統括部電気通信開発部 〒322-0014 栃木県鹿沼市さつき町13-4	0289-76-2279 i-oshima@denkikogyo.co.jp	20.5	
9	専門委員 表 英毅	ソフトバンクモバイル(株) 研究本部無線ソリューション研究部 〒135-0064 東京都江東区青海2-5-10 テレコムセンタービル東棟13階	03-5500-1836 hideki.omote@g.softbank.co.jp	20.5	
10	専門委員 菅野 一生	(株)KDDI研究所 無線プラットフォームグループ 〒356-8502 埼玉県ふじみ野市大原2-1-15	049-278-7804 is-kanno@kddilabs.jp	20.5	
11	専門委員 吉敷 由起子	(株)構造計画研究所 社会インフラシステム部電磁界解析室 〒164-0011 東京都中野区中央4-5-3	03-5342-1533 y-sanoh@kke.co.jp	20.5	
12	専門委員 佐藤 浩	パナソニック株式会社 コネクティッドソリューションズ社 イノベーションセンター 〒224-8539 神奈川県横浜市都筑区佐江戸町600番地 (374-N5A)	050-3686-8788 satoh.h@jp.panasonic.com	20.5	
13	専門委員 塩見 英久	大阪大学 基礎工学研究科電子光科学領域岡村研究室 〒560-8531 大阪府豊中市待兼山町1-3基礎工学研究科D棟518号室	06-6850-6307 shiomi@ee.es.osaka-u.ac.jp	21.5	継続
14	専門委員 竹村 暢康	日本工業大学 工学部電気電子工学科 〒315-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1	0480-33-7651 takemura.nobuyasu@nit.ac.jp	21.5	新任
15	専門委員 田中 祥次	株式会社放送衛星システム 総合企画室 〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷1-16-4	03-5453-5740 shoji-tanaka@b-sat.co.jp	20.5	交代
16	専門委員 中林 寛暁	千葉工業大学 工学部電気電子情報工学科 〒275-0016 千葉県習志野市津田沼2-17-1	047-478-0366 hiroaki.nakabayashi@it-chiba.ac.jp	21.5	継続
17	専門委員 野口 啓介	金沢工業大学 工学部電子情報通信工学科 〒921-8501 石川県野々市市扇が丘7-1	076-248-9483 noguchi@neptune.kanazawa-it.ac.jp	20.5	
18	専門委員 橋本 紘	(株)東芝 研究開発本部研究開発センターワイヤレスシステムラボラトリー 〒212-8582 神奈川県川崎市幸区小向東芝町1	044-549-2286 koh.hashimoto@toshiba.co.jp	21.5	新任
19	専門委員 日景 隆	北海道大学 大学院情報科学研究科メディアネットワーク専攻 〒060-8628 北海道札幌市北区北14条西9丁目	011-706-6526 hikage@wtcm.ist.hokudai.ac.jp	20.5	
20	専門委員 平部 正司	日本電気(株) ワイヤレスネットワーク開発本部 〒211-8666 神奈川県川崎市中原区下沼部1753	044-455-8476 m-hirabe@ce.jp.nec.com	21.5	新任
21	専門委員 福迫 武	熊本大学 大学院自然科学研究科情報電気電子工学専攻 〒860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪2-39-1	096-342-3839 fukusako@cs.kumamoto-u.ac.jp	20.5	
22	専門委員 藤本 孝文	長崎大学 大学院工学研究科 〒852-8521 長崎県長崎市文教町1-14	095-819-2565 takafumi@nagasaki-u.ac.jp	20.5	
23	専門委員 本田 和博	富山大学 大学院理工学研究部(工学) 〒930-8555 富山県富山市五福3190	076-445-6759 hondak@eng.u-toyama.ac.jp	21.5	新任
24	専門委員 本間 尚樹	岩手大学 電気電子・情報システム工学科 〒020-8551 岩手県盛岡市上田4-3-5 工学部3号館429号室	019-621-6945 honma@iwate-u.ac.jp	21.5	継続
25	専門委員 松沢 晋一郎	(株)豊田中央研究所 システム・エレクトロニクス2部 電磁応用研究室 〒480-1192 愛知県長久手市横道41-1	0561-71-7740 matsuzawa@mosk.tytlabs.co.jp	21.5	継続
26	専門委員 道下 尚文	防衛大学校 電気情報学群電気電子工学科 〒239-8686 神奈川県横須賀市走水1-10-20	046-841-3810 (内) 3377 naobumi@nda.ac.jp	20.5	
27	専門委員 山ヶ城 尚志	富士通アドバンステクノロジー(株) 開発プラットフォーム技術統括部 シミュレーション技術開発部 〒212-8510 神奈川県川崎市幸区新小倉1-1 富士通新川崎テクノロジーセンター内	044-742-2111 yamagajo@fujitsu.com	20.5	
28	専門委員 山岸 傑	住友電気工業(株) システム事業部無線システム部 〒554-0024 大阪府大阪市此花区島屋1-1-3	06-6466-5698 yamagishi-suguru@sei.co.jp	20.5	
29	専門委員 芳野 真弓	日本電業工作株式会社 ワイヤレス事業部 開発部 R&Dグループ 〒350-0069 埼玉県坂戸市にっさい花みず木7-4	049-288-2635 yoshino-mayumi@den-gyo.com	20.5	
30	専門委員 吉村 直子	情報通信研究機構 ワイヤレスネットワーク総合研究センター宇宙通信研究室 〒184-8795 東京都小金井市貫井北町4-2-1	042-327-5336 naoko@nict.go.jp	21.5	新任
31	専門委員 今井 哲朗	(株)NTTドコモ 先進技術研究所 ワイヤレス方式研究グループ 〒239-8536 神奈川県横須賀市光の丘3-6	046-840-3759 imaite@nttdocomo.com	20.5	幹事控
32	専門委員 木村 雄一	埼玉大学 工学部 電気電子システム工学科 〒338-8570 さいたま市桜区下大久保255	048-858-3837 ykimura@aplabb.ees.saitama-u.ac.jp	21.5	新任
33	専門委員 山田 寛喜 常設委員長	新潟大学 工学部情報工学科 〒950-2181 新潟市五十嵐2の町8050	025-262-7477 yamada@ie.niigata-u.ac.jp	20.5	(ポスト)
34	専門委員 高橋 徹 論文委員長	三菱電機(株) 情報技術総合研究所アンテナ技術部 〒247-8501 鎌倉市大船5-1-1	0467-41-2532 ttoru@ieee.org	20.5	(ポスト)
35	専門委員 森下 久 歴史委員長	防衛大学校 電気電子工学科 〒239-8686 神奈川県横須賀市走水1-10-20	046-841-3810 (内線2261) morisita@nda.ac.jp	21.5	新任
36	専門委員 藤元 美俊 表彰委員長	福井大学 大学院工学研究科情報・メディア工学専攻 〒910-8507 福井県福井市文京3-9-1	0776-27-8913 fujimo@u-fukui.ac.jp	21.5	新任
37	専門委員 広川 二郎 国際委員長	東京工業大学 工学院電気電子系 〒152-8552 東京都目黒区大岡山2-12-1-S3-20	03-5734-2567 jiro@ee.e.titech.ac.jp	21.5	新任

\* 個人情報が含まれておりますので、取扱いに注意し、目的以外に使用しないで下さい。

2019年度アンテナ・伝播研究専門委員会顧問構成

区分	氏名	所属 〒 所在地	TEL E-mail
1	顧問 新井 宏之	横浜国立大学 大学院工学研究院 知的構造の創生部門 電子情報システム 〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5	045-339-4260 arai@ynu.ac.jp
2	顧問 安藤 真	国立高等専門学校機構 〒193-0834 東京都八王子市東浅川町701-2	042-662-3123 ando@kosen-k.go.jp
3	顧問 伊藤 精彦	北海道大学 名誉教授 〒064-0805 札幌市中央区南5条西16丁目1-10(自宅)	011-561-6658(自宅) itoh@emwt.ice.eng.hokudai.ac.jp
4	顧問 伊藤 公一	千葉大学 フロンティア医工学センター 名誉教授・客員教授 〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33	ito.koichi@faculty.chiba-u.jp
5	顧問 宇野 亨	東京農工大学 大学院工学研究院先端電気電子部門 〒184-8588 小金井市中町 2-24-16	042-388-7146 uno@cc.tuat.ac.jp
6	顧問 鹿子嶋 憲一	茨城大学 名誉教授 〒240-0112 神奈川県三浦郡葉山町堀内536-3(自宅)	046-875-7030(自宅) kenichi.kagosima.em21@vc.ibaraki.ac.jp
7	顧問 唐沢 好男	〒350-0132 埼玉県比企郡鳩山町鳩ヶ丘5-12-1(自宅)	080-5197-5882(個人携帯) karasawa440@gmail.com
8	顧問 菊間 信良	名古屋工業大学 つくり領域 電気・機械工学専攻 〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町	052-735-5443 kikuma@nitech.ac.jp
9	顧問 後藤 尚久	東京工業大学・拓殖大学 名誉教授 〒193-0825 八王子市城山手2-8-1(自宅)	042-663-3173(自宅) n.goto@m.ieice.org
10	顧問 澤谷 邦男	東北大学 名誉教授 〒980-0871 仙台市青葉区八幡4-2-31(自宅)	022-219-1882(自宅) sawaya@ecei.tohoku.ac.jp
11	顧問 塩川 孝泰	東北学院大学 名誉教授 〒184-0014 東京都小金井市貫井南町5-14-5	042-382-9755 tashioakawa@kcd.biglobe.ne.jp
12	顧問 庄木 裕樹	(株)東芝 研究開発センター ワイヤレスシステムラボラトリー 〒212-8582 川崎市幸区小向東芝町1	044-549-2283 hiroki.shoki@toshiba.co.jp
13	顧問 高野 忠	日本大学 理工学部 電子工学科 〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1	047-469-5529 takano@ecs.cst.nihon-u.ac.jp
14	顧問 長 敬三	千葉工業大学 工学部電気電子情報工学科 〒275-0016 千葉県習志野市津田沼2-17-1	047-478-0371 cho@m.ieice.org
15	顧問 手代木 扶	元アンリツ 〒167-0051 杉並区荻窪4-13-14(自宅)	03-3398-6641(自宅) tskeshi@jcom.home.ne.jp
16	顧問 羽石 操	埼玉大学 名誉教授 〒330-0071 さいたま市浦和区上木崎7-26-3(自宅)	048-832-8443(自宅) m.h.321@jcom.home.ne.jp
17	顧問 平澤 一紘	筑波大学 名誉教授 〒166-0001 杉並区阿佐谷北5-18-8(自宅)	03-3339-3475(自宅) hirasawa@ieee.org
18	顧問 藤本 京平	筑波大学 名誉教授 〒251-0033 藤沢市片瀬山2-16-9(自宅)	0466-28-4027(自宅) hqm11446@flute.ocn.ne.jp
19	顧問 船川 謙司	〒267-0055 千葉市緑区越智町705-140(自宅)	043-295-2289(自宅) kenji-funakawa@nifty.com
20	顧問 古濱 洋治	〒631-0046 奈良市西千代ヶ台1-19-8(自宅)	0742-49-2512(自宅) furuhamaya.yoji@kcn.jp
21	顧問 細矢 良雄	北見工業大学 名誉教授 〒239-0814 神奈川県横須賀市二葉1-14-1-508(自宅)	046-887-0498(自宅) hosoyaem@gray.plala.or.jp
22	顧問 堀 俊和	福井大学 産学官連携本部 〒910-8507 福井市文京3-9-1	0776-27-8769 hori@m.ieice.org
23	顧問 牧野 滋	金沢工業大学 工学部 電気系情報通信工学科 〒921-8501 石川県野々市市扇が丘7-1	076-248-9749 makino@neptune.kanazawa-it.ac.jp
24	顧問 虫明 康人	東北大学 名誉教授 〒981-0963 仙台市青葉区あけぼの町2-18(自宅)	022-234-0501(自宅) ymushiak@sm.rim.or.jp
25	顧問 諸岡 翼	元(株)東芝 〒192-0916 八王子市みなみ野2-12-11(自宅)	042-637-5788 CBB04570@nifty.com
26	顧問 横井 寛	元KDD 〒195-0054 町田市三輪町31-11(自宅)	044-988-1656(自宅) yoko-kuwan.108@s2.dion.ne.jp

\* 個人情報が含まれておりますので、取扱いに注意し、目的以外に使用しないで下さい。

顧問会規定 (2012.12専門委員会承認)

○AP研委員長経験者あるいはAP研執行部が推薦した者の内、満55歳以上の方

## 2017年度アンテナ・伝播研究専門委員会IEEE AP-S リエゾンメンバ(LM)構成

区分	氏名	所属 〒 所在地	TEL E-mail
1 (Tokyo)	LM 高橋 応明	千葉大学 フロンティア医工学センター 〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33	043-290-3498 masa@ieee.org
2 (Kansai)	LM 出口 博之	同志社大学 理工学部電子工学科 〒610-0394 京都府京田辺市多々良都谷1-3	0774-65-6371 hdeguchi@mail.doshisha.ac.jp
3 (Fukuoka)	LM 豊田 一彦	佐賀大学 教育研究院自然科学域理工学系 〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄町1番地	0952-28-8638 toyoda@cc.saga-u.ac.jp
4 (Nagoya)	LM 藤元 美俊	福井大学 大学院工学研究科情報・メディア工学専攻 〒910-8507 福井県福井市文京3-9-1	0776-27-8913 fujimo@u-fukui.ac.jp

\* 個人情報が含まれておりますので、取扱いに注意し、目的以外に使用しないで下さい。

リエゾンメンバ規定 (2007.12専門委員会承認)

- 当該年度の電子情報通信学会総会時点の日本国内のIEEE AP-S 各Chapter Chairperson
- 本規定は2005年度(平成17年度)に遡って実施する
- 2年ごと1月1日から更新

2019年6月20日

AP 研執行部

## 2019年度 AP 研各種委員会体制

1. 【報告】2019年度 AP 研各種委員会新任委員長について

アンテナ・伝播研究専門委員会 各種委員会及び拡大執行委員会規程の第3条第2項に基づき、2019年度の新任の各種委員会委員長が、アンテナ・伝播研究専門委員会委員長より下記の通り提案され、2018年度下期アンテナ・伝播研究専門委員会において承認されました。

- ・アンテナの歴史委員会委員長： 森下 久（防衛大学校）
- ・表彰委員会委員長： 藤元 美俊（福井大学）
- ・国際委員会委員長： 広川 二郎（東京工業大学）

参考：

第3条（各種委員会委員長）

各種委員会には委員長を置く。

2. 各種委員会委員長は、AP 研委員長が提案し、AP 研の承認を得ることによって決定する。

3. 各種委員会委員長は1名とする。

第4条（各種委員会幹事、幹事補佐）

各種委員会には幹事を置く。また、各種委員会委員長が合理的な理由をもとに必要と判断した場合には幹事補佐を置くこともできる。

2. 各種委員会幹事、幹事補佐は、各種委員会委員長が指名することによって決定する。

3. 各種委員会幹事、幹事補佐は原則として1名とするが、各種委員会委員長が必要と判断した場合には複数名の幹事、幹事補佐を置くこともできる。

2. 【報告】2019年度 AP 研各種委員会執行部体制

各種委員会	委員長	幹事
WS 常設委員会	山田 寛喜（新潟大）	木村 雄一（埼玉大）
論文委員会	高橋 徹（三菱電機）	北尾 光司郎（ドコモ）
アンテナの歴史委員会	森下 久（防衛大）	桧垣 誠（東芝）
表彰委員会	藤元 美俊（福井大）	竹村 暢康（日本工大） 川上 由紀（福井高専）
国際委員会	広川 二郎（東工大）	榊原 久二男（名工大）

以上

2019年6月20日

AP 研執行部

## 2019年度アンテナ・伝播研究専門委員会活動方針

### 1. 次年度活動方針

#### (1) 執行部

##### <第一種研究会>

- ・運営、プログラム作成、懇親会の実施
- ・IEEE AP-S 共催 (Tokyo:6、7、8、9、12月、Kansai:5、10、1月、Nagoya:2、3月、Fukuoka:11月)
- ・URSI-F 共催 (5、7、10、1月)
- ・7月 SANE、SAT 研併催、9月 MW 研併催、11月 RCS 研併催、1月 WPT 研併催
- ・Web 配信システムの効果的な運営、新システムへの移行
- ・特別講演、毎月のチュートリアル講演の実施
- ・学生・若手奨励賞の推薦、表彰委員会の運営支援
- ・研究会推薦論文制度の実施
- ・オーガナイズドセッション 企業特集、学生特集、電波伝搬
- ・会員数の分析および年間登録の活性化
- ・4月、5月期の発表件数確保のための施策 (長期課題)
- ・他研専との併催の見直し (新規、中断、中止) (継続課題)  
(※CQ 研との併催は二種研から→研専横断型研究会への協賛)
- ・学生と企業をつなげる施策

##### <第二種研究会>

- ・WS、AWS、BWS、基礎講座の運営支援
- ・チュートリアル WS の運営
- ・第二種研 AMT 研の運営支援
- ・AWAP2019(ソウル)、IJAWT2019 (インドネシア)、MJWRT2019 (マレーシア)、PJ-WWRAT

(フィリピン)の運営支援

<大会>

- ・投稿数維持または増加への施策（継続課題）
- ・シンポジウム、パネル等特別セッションの企画、論文委員会の運営支援
- ・大会のセッション開催・開始・終了時間等の設定の円滑な運営方法の働きかけ（本部へ）

<専門委員会>

- ・論文誌再編集号発行支援
- ・年間登録、技報アーカイブ登録のお願い
- ・専門委員の専門分野バランスの見直し（長期課題）
- ・新委員、女性委員の登用による活性化
- ・新任：陳委員長（東北大）、黒川副委員長（産総研）、有馬幹事（農工大）、木村委員（埼玉大、幹事枠）、森下委員（防衛大、歴史）、藤元委員（福井大、表彰）、広川委員（東工大、国際）、竹村委員（日本工大）、本田委員（富山大）、橋本委員（東芝）、吉村委員（NICT）、平部委員（NEC）  
（役職変更も含める）
- ・退任：広川委員長（東工大）、山口副委員長（ソフトバンク）、木村幹事（埼玉大）、西森委員（新潟大、幹事枠）、長委員（千葉工大、歴史）、岩井委員（同志社、表彰）、榊原委員（名工大、国際）、有馬委員（農工大）、塚本委員（豊橋技科大）、桧垣委員（東芝）、三浦委員（NICT）  
（役職変更も含める）
- ・交代：中澤委員（放送衛星システム）→田中委員（放送衛星システム）
- ・座長の募集案内及び研究会の宣伝
- ・各種委員会の見直し（新規、廃止、変更）（長期課題）
- ・申請ベース活性化資金の獲得（小形アンテナコンペで申請し、採録）
- ・拡大執行委員会、顧問会の実施
- ・専門委員会配下の各種委員会の実施

- ・通ソ研専運営会議の出席
- ・ AP 和文・英文特集号に関する論文委員会の運営支援
- ・ 2019 年度予算の効果的な用途を検討（※長期課題）
- ・ 大会アーカイブ化の実施

<広報>

- ・ AP-NET による各種情報提供
- ・ AP 研からのお知らせによる情報展開
- ・ Web-Site の充実（各種情報の更新など）
- ・ AP-NET 登録数の増強継続と、第一種研開催案内等、広報での積極的活用
- ・ AP 研カレンダー作成（WEB 上、紙面化は歴史委員会で実施）

(2) WS 常設委員会

- ・ アンテナ・伝搬関連分野の研究者・技術者スキルアップのための教育・育成事業の充実および新規開拓を図る。
- ・ 聴講者満足度向上を目指した企画を立案し円滑な運営を推進するとともに、財務基盤安定化に貢献する。

〔ワークショップ(WS)〕

アンテナ・伝搬関連分野の研究者・技術者のニーズ，および AP 研としてサポートすべき分野バランスを勘案して，新企画の実行委員会を立ち上げる．その際，進行企画の数にも配慮する．

シラバス審議から 1 年をめどに開催できる企画を立案し着実な運営を目指す．

〔基礎講座(KK)〕

毎年実行委員会を組織し，WS と同様に活動の透明化を行う．講師・講師候補・開催地を適宜見直す．

〔アドバンスドワイヤレスシリーズ(AWS)〕

技術動向を見極め，企画から半年後をめどに開催し新シリーズの定着を図る．

〔ベーシックワイヤレスシリーズ(BWS)〕

基礎講座との棲み分けを明確にした上で，BWS としてアンテナ・伝搬関連分野の



発展に資するテーマ設定を議論し、次回の企画立案および長期計画を策定する。

〔再開催ワークショップ(WS-R)〕

聴講者アンケート等のニーズ動向、共催団体からの要望を考慮して、バランスのとれた再開催を実施する。

〔長期展望〕

既開催 WS 等資産を活用した、従来型ワークショップにこだわらない形式での教育・育成事業のあり方を検討する。また、異分野融合、すなわち他分野および関連分野へのアンテナ・伝搬技術の応用を加速するワークショップの在り方を検討する。

〔その他〕

ワークショップ運営体制・サポートの整備 (WS 常設委員の拡充、実行委員会マニュアルの更新など)

共催団体独自企画ワークショップ情報を共有し、テーマの重複を避けるように努める。実行委員・事務局・講師に過度な負担が生じないよう体制・運営方法などを検討する。

### (3) 論文委員会

- ・ AP 研執行部と連携して研究トピックを発掘し、AP 研関連特集号に反映する。
- ・ 現在進行中/予定の AP 研関連特集号が円滑に運営できるようにサポートする。
- ・ AP 研執行部、表彰委員会、特集号執行部と連携して、AP 研論文賞を実施する。
- ・ 今後の AP 関連論文誌編集委員配置およびその将来候補となる特集号編集委員の構成を検討する。
- ・ AP 関係論文再編集号 2019 年版の発行について、2018 年版の問題点や改善すべき点を確認した上で実施する。
- ・ ComEX 早期公開レターの研究会発表および ComEX AP 特集号について引き続き検討する。
- ・ 和文特集号招待論文の英訳版発行について引き続き検討する。
- ・ 論文投稿数増加の施策を検討する。例：研究会原稿の論文化メンター制度の是非

### 【大会】

- ・ AP 研執行部と連携して研究トピックを発掘し、大会企画に反映する。
- ・ 総合大会/ソサエティ大会におけるプログラム編成委員の構成を検討し積極的にサポ

ートする。

- ・総合大会/ソサイエティ大会におけるレター/論文推薦制度および研究会への投稿推薦に関し、問題点や改善すべき点を改善した上で引き続き実施する。
- ・総合大会、ソサイエティ大会での英語セッション、女性活躍支援策を継続する。
- ・大会のB分野投稿件数増加の施策を検討する。例：ポスターセッションの是非

#### (4) アンテナの歴史委員会

[歴史資料のデータベース移管について]

- ・登録しなくても閲覧できる新システムを信学会サーバ（AP研アカウント）に構築完了した。

[カレンダー]

- ・19年カレンダーは100部印刷し、2018年12月13日のAP研懇親会で顧問、専門委員、受賞者に配布。
- ・20年カレンダーもAP研執行部の了解を得て100部印刷したい。

[歴史委員会講演会]

- ・2018年度は7月19日AP研（北大）で小川 恭孝先生にご講演いただいた。（テーマ名「移動通信における信号処理アンテナの進展 —アダプティブアンテナからMIMOシステムへ—」）
- ・2019年は高野 忠先生にお願いし、了解をいただいた。2019年9月AP研での講演を予定。

[歴史資料関係]

- ・20世紀以降の案件を中心に、新たなデータ登録を引き続き呼びかける。自由公募以外に歴史委員会で候補を選出するため、今後、方法を継続議論する。（例：論文/WSテキスト/歴史講演の掲載案件、マイルストーンからの選出等）。
- ・会員や若手技術者に歴史資料を整理展開する方法も議論していく。（例：サーベイ論文/技報の作成、技術をまとめたWebページ等）

#### (5) 表彰委員会

- ・AP研論文賞の実施（和英文特集号）

・ AP 研若手／学生奨励賞，活性化貢献賞，功労賞の実施

・ 信学会 各賞・フェロー推薦サポート

フェロー推薦に向けたサポートを実施する予定．功績賞・業績賞(教育)・教育功労賞・教育優秀賞について，各賞受賞に向けたサポートを実施する予定

## (6)国際委員会

・ 今後の開催予定

AWAP2019(ソウル):4/24-25 (実施済み)

IJAWT2019 (インドネシア) :7/29-30

MJWRT2019 (マレーシア) :8/1-2

PJ-WWRAT (フィリピン) :7/4 トライアル、12/4-6 公募

・ 次回 AWAP(2020)は順番では日本であるが、ISAP と重なるためベトナムで開催予定

・ AP 研海外開催の運営に関するガイドラインの作成

## 2. 今後のスケジュール

2019年5月9日(木) : 上期各種委員会 東工大

2019年6月20日(木) : 上期専門委員会 機械振興会館 B3-2 会議室

2019年9月13(金) or 14日(土)

: 拡大執行委員会 (ソサイエティ大会開催期間中)

2019年11月7日(木) : 下期各種委員会 東工大

2019年12月12日(木) : 下期専門委員会 機械振興会館 B3-2 会議室

2020年3月\*\*日(\*\*) : 拡大執行委員会 (3月研究会に合わせて開催?)

1. 2019年ソサイエティ大会及び2020年総合大会シンポジウム講演の計画（審議事項）

## (1) 2019年ソサイエティ大会(2019/9/10～13@大阪大学)企画提案

- 企画分類：公募シンポジウム（依頼講演を含む予定）
- テーマ名：海中における電磁波利用（通信、制御、給電、センシング）
- 共催：ワイドバンドシステム研究専門委員会、高信頼制御通信研究専門、アンテナ・伝播研究専門、スマート無線研究専門、無線電力伝送研究専門
- オーガナイザ：中村聡（東京理科大）、陳強（東北大）、李還幫（情報通信研究機構）、稲森真美子（東海大学）、高橋応明（千葉大）、吉田弘（海洋研究開発機構）、
- 提案趣旨

我が国は世界有数の排他的経済水域面積を有しており、その潜在的な資源顕在化するため、海中における電磁波利用について注目が高まっている。電磁波利用の例としては、自律潜航艇（AUV）等の海中ロボット制御やセンサからのデータ取得のための通信利用、海中ロボットや埋設・設置型装置への給電利用、海水中・海底下を対象とした水質・生物・鉱物などのセンシング利用があげられる。

本シンポジウムでは、海中における電磁波（電波から光まで）利用に関連して、方式設計、アンテナ・装置開発、実証及び応用評価等、幅広いレイヤにわたる成果を有することで、本分野に関連する研究開発のさらなる発展をめざして開催する。

## (2) 2020年総合大会(2020/3/17～20@広島大学)企画提案

- 企画分類：チュートリアルセッション企画
- テーマ名：機械学習がもたらす新たなアンテナ・伝搬技術
- 共催：なし
- オーガナイザ：中林寛暁（千葉工大）
- 提案趣旨

昨今の機械学習の進化は、ビジネスや社会の様々な場面で多くの変化をもたらせつつある。また、アンテナ・伝搬の研究分野においても、機械学習の利用は難解な問題の解決や新しい領域の開拓のツールとして可能性を秘めており、その需要が高まっている。本セッションでは、機械学習の基礎から各分野での機械学習の効果的な利用方法までの理解を目指し、電波伝搬、アンテナ、アンテナシステム分野への応用例について講演を依頼する。

## (3) 2020年総合大会(2020/3/17～20@広島大学)企画提案

- 企画分類：パネルセッション企画
- テーマ名：アンテナ・伝搬分野における相関係数の理解と適切な利用
- 共催：なし
- オーガナイザ：本間尚樹（岩手大）

■ 提案趣旨

相関係数は様々な分野で現象の解析や評価に広く用いられている。アンテナ・伝搬の分野では、伝搬特性評価・マルチアンテナ性能評価・アレー信号処理などで用いられることが多いが、評価対象や用途によって相関係数の定義は様々であり、研究者による考え方や扱い方の違いも存在している。そこで、本パネルセッションでは、アンテナ・伝搬分野における相関係数に関する様々な研究事例やトピックスをご紹介頂き、パネリストと参加者との技術討論を交えて相関係数についての理解と利用法を共有することを目的とする。

2. 2019年ソサイエティ大会シニアセッションへの投稿のお願い（依頼事項）

AP研では、ベテラン研究者によるシニアセッションを、総合大会／ソサイエティ大会最終日の午後に開催しております。ベテラン研究者の皆さんが模範となるご講演をみずから行って頂くことにより、学生や若手研究者の技術力向上と大会における議論の活性化を図ることを目的として本セッションの企画をしております。これまではAP研幹事経験者を中心にセッションを構成してまいりましたが、専門委員の皆様にも是非ともご講演のご協力をお願いしたいと考えております。

大変お忙しい中恐縮ではございますが、ご協力のほどよろしくお願い致します。

2019年ソサイエティ大会でのシニアセッションの予定は下記の通りです。

ご投稿可否のアンケートにつきましては、後日改めてAP研論文委員会幹事よりご連絡させていただきます。

どうぞよろしくお願い致します。

■2019年ソサイエティ大会 AP研シニアセッションの予定

日時：2019年9月13日（金）午後（大会最終日の午後）

場所：大阪大学 豊中キャンパス

※投稿締め切り：2019年7月3日（水）17:00

なお、直近の大会でのシニアセッションプログラムについては以下でご確認できます。

●2018年ソサイエティ大会 9月14日 14:30～16:30

[http://www.gakkai-web.net/gakkai/ieice/S\\_2018/Settings/html/program/cs\\_ippan.html#b\\_1b](http://www.gakkai-web.net/gakkai/ieice/S_2018/Settings/html/program/cs_ippan.html#b_1b)

●2019年総合大会 3月22日 16:00～17:00

[https://www.ieice-taikai.jp/2019general/jpn/webpro/\\_html/cs.html#b\\_1b](https://www.ieice-taikai.jp/2019general/jpn/webpro/_html/cs.html#b_1b)

以上

## 2019年度研専運営会議自由裁量ベース活性化資金の活用計画

A・P 研執行部

## 1. 研専運営会議自由裁量ベース活性化資金とは

- ・2006年度から技報販売実績や大会・第一種研究会実績に応じて、常設研専に配分される活性化資金であり、研専独自の裁量権が高いのが特徴。年度末に施策報告。

## 2. これまでの配分額・活用実績と今年度配分想定額

年度	配分額	施策項目
2006	24.6万円	第一種研究会海外開催（2007年3月 台湾開催）費用
2007	14.1万円	基礎講座テキスト作成費用
2008	64.7万円	第一種研究会海外開催（2008年3月 マカオ開催）費用、 基礎講座テキスト作成費用
2009	62.6万円	オーガナイズドセッション企画・実施費用、 カレンダー製作費用、表彰経費
2010	38.9万円	第一種研究会海外開催（2010年5月 南京開催）費用、 カレンダー製作費用
2011	38.1万円	KJAP2012開催（2012年1月 那覇開催）費用、 論文誌 AP 再編集号印刷補助、技報年間予約購読促進施策
2012	40.1万円	基礎講座講師謝金、海外チュートリアル WS 開催／論文誌 AP 再編集号印刷補助、技報購読促進施策、カレンダー製作
2013	37.3万円	基礎講座講師謝金、再編集号印刷補助、技報購読促進施策、 カレンダー製作、表彰経費補助
2014	37.1万円	論文誌 AP 再編集号印刷補助、再編集号電子ブック作成補助、 技報読促進施策、広報費（AP 研カレンダー）、表彰経費補助
2015	37.6万円	基礎講座講師謝金、技報読促進施策、広報費（AP 研カレンダー）、 表彰経費補助
2016	38.1万円	研究会トライアルにおける Web 配信機器の補助、技報年間登録 促進施策、広報費（AP 研カレンダー、50周年記念関係）、 表彰経費補助
2017	38.2万円	Web 配信機器の補助（WiMAX2 ルータ通信費、高感度マイク等）、 技報年間登録促進施策、広報費（AP 研カレンダー）、表彰経 費補助
2018	37.8万円	再編集号印刷製本費、電波伝搬コンペ運営委員会経費、大会 アーカイブ作成経費

## 3. 【審議事項】2019年度自由裁量活性化資金の活用案

施策項目	予算額
大会アーカイブ作成費用	380,000 円
計	380,000 円

※超過分は AP 研の別収入から充当する。数字は若干修正になる可能性あり。

## ※参考

- ・ 研専が申請できる活性化のための資金には、下記のものがあります。
  1. 研専運営会議活性化資金
    - (a) 申請ベース資金 通ソ他研専の参考になる新規性の高い施策（3月審議）  
⇒ 「小形アンテナコンペティション」の施策で申請して承認済み、
    - (b) 自由裁量ベース資金 AP 研のことだけを考えた施策も可能
  2. 通ソ活性化活動準備金 通ソ全体のことも考慮した施策（随時申請・審議）
  3. ソサイエティ活性化基金 信学会全体のことも考慮した施策（随時申請・審議）

## 2019年度AP研予算案

2019年6月20日

研究専門委員会名：アンテナ・伝播研究専門委員会		
委員長名（所属）：陳 強（東北大）		
幹事名（所属）：深沢 徹（三菱電機）		
期間：2019年度		
収入：		
① 前年度繰越金：	2,700,000	特定資産からの繰入額
② 第一種研究会交付金：	100,000	研専活動費
③ その他：		
③-1 学会交付金等：		
研専自由裁量活性化資金	378,000	※去年度実績額
通ソ研専活性化企画（申請ベース資金）	200,000	
支部からの繰入額(WSR/九州支部)	80,000	支部からの編入額
一種研施設使用費	740,000	
③-2 他団体からの繰入等：		
他団体からの繰入金(WSR/APS JC)	0	
③-3 事業収入：		
WS収入	3,740,000	参加費収益
基礎講座収入	350,000	参加費収益
論文誌再編集号収入	210,000	雑収益
AMT研収入	225,000	参加費収益
その他事業収入（大会アーカイブ USB 販売）	1,200,000	(15,000円*80個)
③-4 利息：		
利息	0	
<b>&lt;合計&gt;</b>	<b>9,923,000</b>	
支出：予算		
① 第一種研究会施設使用費：	740,000	賃借料
② 第一種研究会受付事務費：	150,000	臨時雇用
③ 専門委員会開催費：	720,000	賃借料
④ その他：		
④-1 一般運営費：		
通信・運搬費	200,000	通信費
雑費（支払手数料他）	50,000	支払い手数料10000+雑費
④-2 事業経費：		
WS講師謝礼	540,000	謝礼
WS経費（謝礼以外）	2,330,000	
基礎講座講師謝礼	140,000	謝礼
基礎講座経費（謝礼以外）	100,000	
チュートリアル特集講演会経費	270,000	
論文誌再編集号経費	180,000	
AMT研TWS講師謝礼	45,000	謝礼
AMT研経費（謝礼以外）	152,000	
大会アーカイブ作成費用	610,000	※自由裁量活性化資金
小形アンテナコンペ費用	280,000	
④-3 表彰経費：		
賞金	180,000	
表彰経費（賞金以外）	20,000	印刷製本代【選奨費】
研究会年間登録促進経費	26,000	
④-4 謝金（事業・表彰経費以外）：		
謝金	0	
④-5 広報費：		
AP研カレンダー	50,000	
<b>&lt;合計&gt;</b>	<b>6,783,000</b>	
残高	<b>3,140,000</b>	





## アンテナ・伝播研究専門委員会 第一種研究会 2020年度実施計画(案)

開催日(仮) 木,木金	予定件数	開催場所(支部)	テーマ	併催	共催	会場世話人 (敬称略)	備考	二種研、委員会、大会	国際会議
4/23,24	10	三重 (東海)	一般		IEEE AP-S Nagoya Chapter				3/15-20 EuCAP (Copenhagen, Denmark)
5/21, 22	20	那覇 (九州)	一般		IEEE AP-S Fukuoka Chapter URSI-F		海外二種研開催 月だが開催	AP研各種委員会(東工大) 基礎講座(東工大) 5/27-29 AWAP(ベトナム)	5/19-22 APEMC 2020(Sydney, Australia) 5/25-28 VTC-Spring(Antwerp, Belgium) 5/25-28 IEEE IMBioC (Toulouse, France)
6/18	10	機械振興会館 (東京)	一般		IEEE AP-S Tokyo Chapter		専門委員会 顧問会		6/21-26 IEEE IMS (Los angels, USA)
7/15, 16, 17	20	帯広 (北海道)	一般, 電波伝搬, リモートセンシン グ, 衛星通信	SANE研, SAT研 (AP研主幹事)	IEEE AP-S Tokyo Chapter URSI-F		電波伝搬オーガナ イズドセッション	(7/24-8/9 東京オリンピック)	7/27-31 IEEE EMC (Nevada, USA) 7/4-11 AP-S (Montreal, Canada)
8/20,21	25	姫路 (関西)	一般		IEEE AP-S Kansai Chapter			(8/25-9/6 東京パラリンピック)	8/29-5 URSI GA (Rome, Italy)
9/24,25	20	お台場 (東京)	一般, マイクロ 波・ミリ波	MW研 (AP研主幹事)	IEEE AP-S Tokyo Chapter			AP研拡大執行委員会 9/15-18ソサエティ大会(徳島大)	9/7-11 EMC Europe (Rome, Italy) 9/13-9/18 EuMW (Utrecht, the Netherlands)
-	-	休会	-	-	-	-			10/26-30 ISAP2020 (Osaka, Japan)
11/25,26,27	20	松山 (四国)	一般, 無線通信	RCS研 (RCS研主幹事)	IEEE AP-S Kansai Chapter			AP研各種委員会(東工大)	11/10-13 APMC (Hong Kong) 11/16-19 CAMA (France) 11/23-27MWP (Matsue, Japan)
12/17	10	機械振興会館 (東京)	一般		IEEE AP-S Tokyo Chapter		専門委員会 顧問会		
1/21,22	20	松本 (信越)	一般, 電力伝送, 電波伝搬	WPT研 (WPT研主幹事)	IEEE AP-S Tokyo Chapter URSI-F		電波伝搬オーガナ イズドセッション	(1/17-18 大学入学共通テスト *新制度移行なので未確定)	
2/18,19	15	富山 (北陸)	一般, 企業特集		IEEE AP-S Nagoya Chapter		企業特集オーガナ イズドセッション	(2/25 前期日程)	
3/25,26	15	会津 (東北)	一般		IEEE AP-S Tokyo Chapter			AP研拡大執行委員会 (3/12 後期日程) 3/2-5 総合大会(東工大)	4/18-23 EuCAP(Düsseldorf, Germany)

## アンテナ・伝播研究専門委員会 第一種研究会 長期開催計画(案)

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
4月	三重(東海)	兵庫(関西)	奈良(関西)	尼崎(関西)	神戸(関西)	兵庫(関西)
5月	沖縄(九州)	福岡(九州)	長崎(九州)	宮崎(九州)	熊本(九州)	鹿児島(九州)
6月	<機械振興会館>	<機械振興会館>	<機械振興会館>	<機械振興会館>	<機械振興会館>	<機械振興会館>
7月	帯広(北海道)	室蘭(北海道)	釧路(北海道)	宇都宮(東京)	利尻(北海道)	札幌(北海道)
8月	姫路(関西)	山形(東北)	高崎(東京)	札幌(北海道)	箱根(東京)	つくば(東京)
9月	お台場(東京)	千葉(東京)	大和(東京)	那須(東京)	埼玉(東京)	埼玉(東京)
10月	休会(ISAP@大阪)	鳥取(中国)	愛媛(四国)	高知(四国)	広島(中国)	大阪(関西)
11月	松山(四国)	福井(北陸)	新潟(信越)	富山(信越)	金沢(北陸)	山梨(信越)
12月	<機械振興会館>	<機械振興会館>	<機械振興会館>	<機械振興会館>	<機械振興会館>	<機械振興会館>
1月	松本(信越)	大分(九州)	沖縄(九州)	彦岐(九州)	沖縄(九州)	福岡(九州)
2月	富山(北陸)	岐阜(東海)	名古屋(東海)	浜松(東海)	三重(東海)	名古屋(東海)
3月	会津(東北)	いわき(東北)	仙台(東北)	山形(東北)	盛岡(東北)	福島(東北)

## 2019年度 無線端末・アンテナシステム測定技術研究会（AMT研）実施計画

2019.6.7 作成

AMT研幹事 飴谷, 柳

## 1. 2019年度研究会開催計画

回数	開催日	開催場所
1	2019年6月25日(火)	稚内, 稚内市日口友好会館(北海道稚内市)
2	2019年12月 日( )	東京(会場未定)

※9月のソサイエティ大会で企画セッションを開催予定。

- ・ 発表申込み：研究会発表申込みシステムの利用
- ・ 予稿集：1,000円当日頒布
- ・ 協賛団体：IEEE AP-S Tokyo chapter および産総研 物理計測標準研究部門

## 2. 2019年度チュートリアルワークショップの開催計画

回数	開催日	開催場所
1	2019年6月26日(水)	稚内, 稚内市日口友好会館(北海道稚内市)

- ・ 参加費(資料代を含む)：3,000円
- ・ テーマ：「大電力ワイヤレス電力伝送システムの漏えい電磁界低減化技術」
- ・ 講師：石田 正明氏(東芝)
- ・ 協賛団体：IEEE AP-S Tokyo chapter および産総研 物理計測標準研究部門

## 3. その他の活動計画

- ・ AMT研アーカイブ販売
- ・ 2019年ソサイエティ大会(@大阪大学)でシンポジウム講演を実施予定  
 テーマ：5Gに向けた基地局・端末アンテナの試験・測定技術の最新動向  
 オーガナイザ：笹森崇行(北海学園大)、飴谷充隆(産総研)

講演者	講演タイトル
猪又 稔 氏(NTTドコモ)	3GPP 対応電波ビジュアライザ(仮)
豊見本 和馬 氏(ソフトバンク)	実伝搬環境における合成開口アンテナを用いた時空間伝搬測定
飯田 雄貴 氏(パナソニック)	5Gに向けた車載アンテナ評価技術(仮)
青木 和典 氏(アンリツ)	5G 端末の測定と課題(仮)
佐々木 謙介 氏(NICT)	5G 無線機器の人体防護ガイドラインへの適合性評価法に関する技術動向

## 4. 予算計画

- ・ 収入は研究会資料販売、TWS参加費収入、アーカイブ販売による。
- ・ 主な支出はTWS謝金、交通費、会議費である。

## 5. 実行委員会構成（2019年度）（敬称略）

役職	氏名	所属	任期
委員長	笹森 崇行	北海学園大学	2020年3月まで
幹事	飴谷 充隆	産業技術総合研究所	2020年3月まで (1年延長)
	柳 崇	三菱電機(株)	2020年3月まで
実行委員 (五十音順)	石井 望	新潟大学	2020年3月まで
	岡田 真優	(株)東陽テクニカ	2020年3月まで
	緒方 健二	直轄産業振興センター A D O X 福岡	2020年3月まで
	木村 泰子	(株)NTT ドコモ	2020年3月まで
	久保田 文人	(一財)テレコムエンジニアリングセンター	2020年3月まで
	小林 敏幸	日本電業工作(株)	2020年3月まで
	佐々木 元晴	NTT(株)	2020年3月まで
	佐藤 啓介	電気興業(株)	2020年3月まで
	高橋 応明	千葉大学	2020年3月まで
	田端 隆伸	小島プレス工業(株)	2020年3月まで
	中林 寛暁	千葉工大	2020年3月まで
	<b>布施 匡章</b>	<b>アンリツ(株)</b>	<b>2021年3月まで, 新規</b>
	浜田 リラ	情報通信研究機構	2020年3月まで
	平野 拓一	東京都市大学	2020年3月まで
	平部 正司	日本電気(株)	2020年3月まで
	本間 尚樹	岩手大学	2020年3月まで
道下 尚文	防衛大学校	2020年3月まで	
山口 良	ソフトバンク(株)	2020年3月まで	
顧問	笹岡 秀一	同志社大学	
	新井 宏之	横浜国立大学	
	黒川 悟	産業技術総合研究所	

※顧問については、委員長・副委員長退任後に2年間委員を務めることでAMT研の顧問の処遇とする。

## 2019年度 AMT 研会計 予算案

2019年3月31日現在	
委員会名：アンテナ・伝播研究専門委員会（AP） 無線端末・アンテナシステム測定技術研究会実行委員会（AMT）	
委員長名（所属）：笹森 崇行（北海学園大）	
幹事名（所属）：飴谷 充隆（産業技術総合研究所）、柳 崇（三菱電機）	
期間：2019年度（2019.4.1～2020.3.31）	
収入：	
前年度余剰金（2018年度からの繰り越し）	268,567
第二種研究会予稿集収入（1,000円×15名×2回）	30,000
TWS参加費収入 （3,000円×15名×1回）	45,000
AMT研アーカイブ販売（5,000円×30部）	150,000
<合計>	<b>493,567</b>
支出：	
実行委員会会議費 （2,000円×10名×2回）	40,000
資料作成および会場受付アルバイト （5,000円×2名×2回）	20,000
会場費（第二種研2回，TWS1回） （30,000円×3回）	90,000
TWS謝金（8時間分，源泉調整込） （20,000円×2名＋源泉徴収等）	45,000
銀行振り込み手数料	2,000
次年度への繰り越し	296,567
<合計>	<b>493,567</b>
残高	0

## 2020年度電波伝搬コンペティション実施計画案

2019年6月20日

今井（ドコモ）

2018年度には2019年信学総大において電波伝搬モデリングコンペティションを実施し、伝搬を専門としない発表者・聴講者も集まり、大いに盛況でした。このような施策は学生・若手研究者のスキルアップや技術分野の裾野を広げるには大いに有効であり、第2回目を次の内容にて企画したいと考えております。つきましては、実施の可否についてご審議をいただきたい。

### ■提案企画

#### ○要旨・目的

2020年7月アンテナ・伝播研究会において、電波伝搬コンペティションを実施し、優秀な発表を表彰する。これにより、学生や若手技術者の伝搬モデリングスキルの向上と電波伝搬に関する技術分野の一層の活性化に資することを目的とする。

#### ○内容（仮）

- ・課題：レイトレーシング法の高速化

共通の環境において提案するレイトレース演算の速度を、一定の精度を満たす前提で競う。

- ・配布データ：対象伝搬条件(エリア、周波数、基地局・移動局条件等)、計算エリアの構造物データ、等
- ・高速化方法：アルゴリズム、構造物モデル、パラメータ最適化の提案など、高速化の方法は問わない。

#### ○表彰：優秀賞，特別賞（賞金についてはAP研執行部と要相談）

#### ○参加想定数：6件

#### ○実施体制：第2回電波伝搬コンペティション実行委員会を設置。

実行委員長：岩井（同志社大），幹事：今井（ドコモ），委員6名程度

#### ○スケジュール

- ・課題設定（～9月）
- ・参加者募集（10月）
- ・本番（2020年7月）
- ・表彰（2020年12月）

以上

2019年6月20日

研究専門委員会名：アンテナ・伝播研究専門委員会			
委員長名（所属）： 広川 二郎（東工大）			
幹事名（所属）： 木村 雄一（埼玉大）、深沢 徹（三菱電機）			
報告期間：2018年度			
収入：	予算	12/1時点	決算
① 前年度繰越金：	3,326,881	3,032,262	3,032,262
② 第一種研究会交付金：	100,000	366,162	419,622
③ その他：			
③-1 学会交付金等：			
研専自由裁量活性化資金	382,000	377,917	377,917
通ソ研専活性化企画（申請ベース資金）	200,000	0	300,000
支部からの繰入額(WSR/九州支部)	40,000	0	78,474
③-2 他団体からの繰入等：			
他団体からの繰入金(WSR/APS JC)	0	0	0
③-3 事業収入：			
WS収入	5,800,000	5,385,501	7,162,781
基礎講座収入	350,000	350,500	350,500
論文誌再編集号収入	180,000	0	228,000
50周年USB販売収入	0	0	0
AMT研収入	285,000	328,619	404,619
③-4 利息：			
利息	0	11	21
<b>&lt;合計&gt;</b>	<b>10,663,881</b>	<b>9,840,972</b>	<b>12,354,196</b>
支出：	予算	12/1時点	決算
① 第一種研究会施設使用費：	420,000	251,911	433,651
② 第一種研究会受付事務費：	168,000	92,000	127,000
③ 専門委員会開催費：	720,000	952,194	1,165,920
④ その他：			
④-1 一般運営費：			
通信・運搬費	100,000	53,930	72,840
雑費（支払手数料他）	50,000	26,994	48,297
④-2 事業経費：			
WS講師謝礼	1,575,000	1,113,700	1,603,728
WS経費（謝礼以外）	3,300,000	3,229,933	4,692,439
基礎講座講師謝礼	133,644	133,644	133,644
基礎講座経費（謝礼以外）	100,000	109,441	109,441
論文誌再編集号経費	180,000	0	200,430
Web配信システム費用(システム, ルータ等)	0	32,400	32,400
大会アーカイブ電子化経費	0	0	216,000
伝搬コンペティション運営経費	300,000	22,552	375,704
AMT研TWS講師謝礼	90,000	0	22,274
AMT研経費（謝礼以外）	195,000	50,946	113,778
④-3 表彰経費：			
賞金	180,000	90,000	160,000
表彰経費（賞金以外）	20,000	23,547	34,859
研究会年間登録促進経費	26,000	13,000	26,000
④-4 謝金（事業・表彰経費以外）：			
謝金	27,000	27,842	27,842
④-5 広報費：			
AP研カレンダー	50,000	0	43,177
<b>&lt;合計&gt;</b>	<b>7,634,644</b>	<b>6,224,034</b>	<b>9,639,424</b>
<b>残高</b>	<b>3,029,237</b>	<b>3,616,938</b>	<b>2,714,772</b>



## 通ソ研専活性化企画（申請ベース資金）提案書

（平成31年度第1回研専運営会議審議用）

提出日 平成31年2月14日

企画名称：小形アンテナコンペティション	
提案元研専名：アンテナ・伝播研究会（A・P研）	提案代表者氏名：広川 二郎
<p>企画要旨・目的：</p> <p>2019年度のアンテナ・伝播研究会(1種研)において、小形アンテナコンペティションを実施し、優秀な発表を表彰する。これにより、技術者のアンテナ設計、製作、測定の実力向上を図り、関連する研究の一層の活性化に資することを目的とする。</p>	
<p>企画内容（本企画の必要性を含めて記載）：</p> <p>5G 移動通信システム、IoT、コネクテッドカーなどに求められる高速かつ高品質な無線通信技術や、ミリ波レーダに代表される RF センシング技術の高度化のためには電波の出入り口となる高性能なアンテナが必須である。一方、ユーザー視点からはアンテナ寸法は小さいほど優れるが、一般的にアンテナ性能と寸法は反比例の関係にあるため、小形かつ高性能なアンテナは研究者にとって永遠のテーマである。近年、高速で高性能な電磁界シミュレータによる設計精度の向上や 3D プリンタに代表される製造法の多様化に伴い、従来は設計や製造が困難であった複雑な形状のアンテナが実現性を帯びてきている。本企画では、前述した環境を好機ととらえ、大学、企業、各研究機関の研究者を同じ土俵で競わせる小形アンテナコンペティションを実施する。参加者に寸法、周波数等の条件を提示し、条件の範囲内で自由にアンテナを設計していただく。設計したアンテナは実際に製造し、性能評価までを実施する。一連の設計、製造、評価結果は研究会の場において発表していただき、アイデアや性能、測定精度等の観点で評価する。同じ土俵で競い合うことで、新たなアイデア発想の促進、研究者間の相互理解の深化、研究者間の交流活性化が期待でき、研究のモチベーション向上に寄与する。本施策は AP 研で初のトライアルとして実施する。2020年10月開催予定の通ソ主催の国際会議 ISAP2020 においてより大規模なコンペティションを実施する予定であり、今回得られたノウハウは ISAP2020 におけるコンペの参考としても活用する。</p>	
<p>ガイドラインへの適合度合いについて：</p> <p>① 特殊性・トピック性、チャレンジ性・フロンティア性が技報予約数増加、会員増強、活性化につながる理由を記述してください。国際化、アウトリーチにつながる施策であれば、それも記述ください。</p> <p>→ 小形で高性能なアンテナという相反する要素を実現するために、大学、企業、各研究機関の研究者のモチベーションを向上させ、最新の設計ツールと製造法でブレークスルーを目指す。同じ土俵で競い合うことで、新たなアイデア発想の促進、相互理解が深まるとともに、研究者間の交流活性化が期待できる。また、今回得られた運用ノウハウ等を通ソ主催の国際会議 ISAP2020 で実施するより大規模なコンペティションに活用することで国際化にも貢献できる。</p> <p>② 技報完全電子化に関連する内容があればそれを記述してください</p> <p>→ 該当しない</p> <p>「サービス評価委員会からの提案」への対応について：</p> <p>① 会員が求めるテーマ（ビジネス寄りのテーマや複合領域等）に沿った発表を増やす施策であるか？</p> <p>→ テーマの題材である小形で高性能なアンテナは近年の産業界で需要が高まりつつある 5G 移動通信システム、IoT、コネクテッドカー、ミリ波レーダ等の技術発展に深く関連するものであり、コンペティションで得られた成果は今後の会員増や発表増に大きく貢献する。</p> <p>② 会員間の交流を促進させる施策であるか？</p> <p>→ 同じ土俵で競い合うことで、相互理解が深まるとともに、研究者間の交流活性化が期待できる。研究会後には懇親会も予定しており、会員間の交流が促進される。</p> <p>③ 研究発表後の Q&amp;A などでの議論を活発化させる施策であるか？</p> <p>→ 研究会において、小形アンテナコンペティションに対する特別セッションを組む予定であり、同一テーマで研究する研究者間が一同に集まることで議論の活性化は必至である。</p>	

必要経費：	28	万円	活性化資金／基金要望額：	20	万円
要望対象資金／基金： <input checked="" type="checkbox"/> 研専運営会議活性化資金, <input type="checkbox"/> 通ソ独立採算活性化活動準備金, <input type="checkbox"/> ソイティ活性化基金					
予算計画（経費内訳、支出時期を、できるだけ詳しく明記のこと）：					
【企画概要】					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小形アンテナコンペティションをアンテナ・伝播研究会の一種研（2020年1月予定）で実施する。</li> <li>・参加者を10名程度募集し、アンテナ寸法、周波数などの制約条件を事前に開示し、設計、試作、評価を実施いただく。希望する参加者には試作費用を補助する（2万円を想定）。</li> <li>・設計のコンセプト、設計結果、試作／評価結果を一種研究会で発表いただき、コンセプトの新規性、性能の高さ、測定精度の高さ等の観点で評価し、上位の参加者を表彰する。副賞として賞金を渡す。</li> <li>・研究会発表の後に参加者による技術交流会を開催し技術者間の交流を図る。</li> </ul>					
【支出】					
・試作費用補助				80,000	円
・測定費用				80,000	円
・表彰経費				20,000	円
・技術交流会開催経費				50,000	円
・実行委員会運営経費				50,000	円
合計：280,000円					
※試作費用、測定費用、表彰経費、技術交流会開催経費のうちコンペティション参加者の参加費相当額を活性化資金／基金から支出し、それ以外の経費はA・P研の通常予算から支出する。					
経費の妥当性					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・試作費用補助は4名を想定（20,000円@1名×4名）。</li> <li>・測定費用は東京都立産業技術研究センターの電波暗室借用料金をもとに算出（13,000円@時間×6時間）。</li> <li>・表彰経費は上位1名に賞金10,000円と賞状、それ以外の入賞者（2名程度）に賞状を贈呈するための費用をもとに算出。</li> <li>・実行委員会運営経費は運営方針、コンペルール、選奨規定等の策定や表彰者の選考を行うための委員会会場費等である。</li> </ul>					
目標値（投稿数・参加人数等）					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンペティション参加者は10名を目標とする。</li> <li>・研究会参加者は60名を目標とする。</li> </ul>					
研専活性化資金ガイドライン*1を読んだか。	<input checked="" type="checkbox"/>	はい	・	<input type="checkbox"/>	いいえ
施策データベース*2に目を通したか。	<input checked="" type="checkbox"/>	はい	・	<input type="checkbox"/>	いいえ
特記事項：					

\*1: 研専運営会議財務関連資料「研専活性化資金ガイドライン Ver.3.7 (2016.12.22)」

\*2: 研専運営会議財務関連資料「施策データベース(2016.06.13)」

## 2019 年度上期 AP 研 WS 常設委員会報告

2019/06/20

WS 常設委員会

以下, 敬称略

## 【0】 基本方針

「AP関連分野の研究者・技術者スキルアップのための教育・育成事業の充実および新規開拓」

「聴講者満足度向上を目指した企画立案, サービスの充実, 円滑運営の推進, 財務基盤安定化への貢献」

## 【1】 メール審議報告【2018\_07】

- ・ WS-高橋徹講師の実行委員会体制が決定した.

## 【2】 WS 実行委員会運営手引きの更新【審議】

- ・ WS が遠方で開催される場合の事務局の出張旅費については明文化しない.
- ・ 受講申込後のキャンセルはできない旨をホームページに明記する.

## 【3】 WS-道下講師の再開催企画【審議】→原案のとおり了承.

## 【4】 WS-西村講師の再開催企画【審議】→原案のとおり了承.

## 【5】 九州支部との共催企画(KK-17)【審議】→原案のとおり了承. 2019/11/14-15, 福岡工大.

- ・ 講師:電磁気学 陳先生, 伝送線路 石井先生, アンテナ 西山先生, 伝搬 市坪先生.

## 【6】 WS 等新講師・新企画【審議】

- ・ 阪本先生(京大)によるレーダー関係 WS の立ち上げを行う. 世話人は山田先生.
- ・ 金先生(新潟大)・斎藤先生(東工大)による 5G ミリ波伝搬関係 AWS の立ち上げを行う. 世話人は西森先生.
- ・ 「相関」「機械学習」は大会や研究会のオーガナイズ・パネル等で可能性を検討. 論文委に依頼.
- ・ 電力伝送やデカップリングなど異分野との融合, 反射鏡・レンズアンテナは引き続き検討.

## 【7】 WS-R24(福迫講師)実施報告. 開催 2018/11/16@福岡工大

- ・ 受講者数 30 人(一般 12 人), 実質収入+78,474 円

## 【8】 AWS-7(北尾講師・西森講師)実施報告. 開催 2018/12/12@東工大田町

- ・ 受講者数 55 人(会員 42 人), 実質収入+798,718 円

## 【9】 WS-62(野口講師, WS-61 再開催)実施報告. 開催 2018/12/14@機械振興会館

- ・ 受講者数 32 人(一般 20 人), 実質収入+106,070 円

## 【10】 WS-63(本間講師, WS-60 再開催)実施報告. 開催 2019/2/20@同志社大今出川

- ・ 受講者数 15 人(一般 13 人), 実質収入-10,717 円

## 【11】 WS-64(新井講師)実施報告. 開催 2019/3/18@同志社大東京

- ・ 受講者数 73 人(一般 53 人), 実質収入+139,171 円
- ・ テキスト及びハンドアウトのカラー印刷をトライアルで実施. 印刷費は約 7 万円増.

## 【12】 KK-16(基礎講座)準備状況報告. 開催予定 2018/5/8-9@東工大大岡山

- ・ 受講者数 54 人(一般 21 人)
- ・ 石井講師, 長講師, 山田講師が 4 回目の講師担当なので, 交代を検討する必要がある.

## 【13】 WS-西山講師準備状況報告. 開催予定 2019/12 頃

- ・ シラバス審議 2018/8/6@東工大田町(済), テキスト審議 2019/9(予定), 発表審議 2019/11(予定)

## 【14】 BWS-大鐘講師準備状況報告. 開催予定 2020/3 頃

- ・ シラバス審議 2019/6/27@新潟大田町(予定), 発表審議 2019/12(予定)

## 【15】 2018 年度 WS 等収支報告 (2019.5.9 現在) (単位:円)

名称	開催日	受講者数	収入	(準備金)	支出	収支差	実質収入
WS-57(西村)	2018/4/16	63	950,000	0	757,850	192,150	192,150
WS-58(道下)	2018/4/26	65	1,170,000	0	781,898	388,102	388,102
KK-15	2018/5/10-11	52	350,500	0	243,585	106,915	106,915
WS-59(市坪)	2018/5/25	79	1,115,001	0	776,981	338,020	338,020
WS-60(本間)	2018/6/22	59	940,000	0	597,650	342,350	342,350
WS-61(野口)	2018/9/10	56	860,000	0	678,498	181,502	181,502
WS-R24(福迫)	2018/11/16	30	330,000	0	173,052	156,948	78,474
AWS-7(北尾,西森)	2018/12/12	55	1,230,002	0	431,284	798,718	798,718
WS-62(野口)	2018/12/14	32	465,000	0	358,930	106,070	106,070
WS-63(本間)	2019/2/20	15	260,000	0	270,717	▲10,717	▲10,717
WS-64(新井)	2019/3/18	73	970,000	0	830,829	139,171	139,171
総額		580	8,640,503	0	5,901,274	2,739,229	2,660,755

※収入には準備金を含む. ※実質収入は準備金・折半分を差し引いた額.

※WS-R24 の収入は AP 研と九州支部で折半.

(参考データ)

2014 年度終了分	282	3,553,058	250,000	2,072,248	1,480,810	1,192,398
2015 年度終了分	454	6,500,476	516,054	3,801,444	2,699,032	2,138,563
2016 年度終了分	336	5,165,001	350,000	2,391,189	2,773,812	2,048,618
2017 年度終了分	342	4,765,500	180,000	2,198,408	2,567,092	2,401,825

## 【16】 メール審議報告【2019\_01】

- ・ WS テキスト及びハンドアウトをカラー印刷で実施する場合の新受講料を設定した.
- ・ 一般/会員 18,000 円, 非会員 30,000 円 学生/会員 6,000 円, 非会員 12,000 円 (2割の値上げ)

## 【17】 メール審議報告【2019\_02】

- ・ AWS-金講師・斎藤講師の実行委員会執行部体制(案, 審議中)
- ・ 委員長:岩井先生(同志社大), 総務幹事:山田様(NTT), 企画幹事:西森先生(新潟大)

## 【18】 メール審議報告【2019\_03】

- ・ AWS-7(北尾講師・西森講師)の再開催企画(案, 審議中) 2019/9(予定)@関西地区(予定)

以上

論文委員会報告

1. 新任・退任委員

- ・退任委員...幹事：道下尚文（防衛大）、和文：山田渉（NTT）※、  
英文：山本学（北大）、通ソマガジン：岩井誠人（同志社大）、  
平野拓一（東京都市大）、会誌：西本研悟（三菱電機）  
※会誌枠で残る。
- ・新任委員...幹事：北尾光司郎（NTT ドコモ）、通ソ：西森健太郎（新潟大）  
和文：笹森崇行（北海学園大）、北直樹（NTT）、大島一郎（電気興業）  
英文：野口啓介（金沢工大）、通ソマガジン：辻宏之（情報通信機構）、  
中林寛暁（千葉工大）、山ヶ城尚志（富士通アドバンステクノロジー）  
ComEX：齋藤健太郎（東工大）

2. 2020年3月電子情報通信学会総合大会企画

- ・チュートリアルセッション企画「機械学習がもたらす新たなアンテナ・伝搬技術」（別途審議）
- ・パネルセッション企画「アンテナ・伝搬分野における相関係数の理解と適切な利用」（別途審議）
- ・アラカルトセッションの講演を専門委員へ依頼。

3. 和文・英文論文誌特集企画

- ・特集企画の状況  
和文：AP 特集（2019年11月掲載）、AP 特集（2020年11月掲載、JBには6月提案予定）  
英文：ISAP 特集号に協力  
ComEX：機械学習の小特集を企画（対象はAP分野ではなく通ソ全体）。  
AP 研企画については継続議論

4. 通ソマガジン企画

MIMO アンテナの評価法をマガジンで企画することについて継続議論。

5. 会誌企画

会誌委員に一任。

6. 論文執筆メンタートライアルについて

- ・2018年10月の第一種研究会において学生セッションを開催（発表：7件）。学生の論文投稿を促すため、AP 研シニアの方から論文化に関するコメントを送付する論文執筆メンター制度をトライアルとして実施。
- ・今後、AP 研がトライアルを実施予定。

7. その他

各担当より報告された。

- ・JB 委員会  
特集号状況について報告。
- ・EB 委員会  
EB 投稿数減少への対策の議論状況について報告。掲載料前払いが10月号掲載分から開始。

- ComEX  
日本人のみの運営に起因するインパクトファクターの問題について報告。総合大会 2019 特集について紹介。
- 通ソマガジン  
「通信がみえる一枚の写真」、「書評」、「博物館めぐり」を募集中。
- 会誌  
WSをベースとした2件の記事の経過について報告。
- 2018AP再編集号  
2018年12月末に発送を完了。
- 和文特集号（2019）  
投稿件数24件、採録件数17件。
- 研究会推薦論文  
評価対象発表件数168件、依頼状発送件数32件。
- 2019年総合大会でのレター・論文推薦、研究会への投稿推薦  
論文・レター投稿推薦 16 件，研究会投稿推薦 42 件。
- 2019年総合大会公募シンポジウム最終報告  
伝搬コンペの講演が 15 件あり、優秀賞 1 件、特別賞 2 件を会期中に発表。6 月 AP 研で表彰式を開催。
- 2019年総合大会依頼シンポジウム最終報告  
5G 総合実証実験関連の講演を 7 件依頼。
- 2019年ソサイエティ大会シンポジウム企画経過報告  
オーガナイザは野口啓介（金沢工大）、山本学（北大）で、「IoT に向けた小形アンテナ設計技術」のシンポジウムを企画。
- 2019年ソサイエティ大会シンポジウム AMT 研企画経過報告  
オーガナイザは笹森崇行（北海学園大）、飴谷充隆（産総研）で、「5G に向けた基地局・端末アンテナの試験・測定技術の最新動向」のシンポジウムを企画。
- 2019年ソサイエティ大会プログラム編成委員会  
2019/7/10 に機械振興会館で開催。

以上

## AP 研アンテナの歴史委員会報告

## 1. 19 年度体制

氏名	住所	電話番号	メールアドレス
飴谷 充隆	〒305-8563 茨城県つくば市梅園1-1-1 中央第3事業所 3-1-312 国立研究開発法人 産業技術総合研究所 計量標準総合センター 物理計測標準研究部門 電磁界標準研究グループ	029-861-4144	<a href="mailto:m.ameya@m.iece.org">m.ameya@m.iece.org</a>
今村 浩一郎	〒157-8510 東京都世田谷区砧1-10-11 日本放送協会 放送技術研究所 伝送システム研究部	03-5494-3446	<a href="mailto:imamura.k-qu@nhk.or.jp">imamura.k-qu@nhk.or.jp</a>
大島 一郎	〒322-0014 栃木県鹿沼市さつき町13-4 電気興業株式会社	0289-76-2279	<a href="mailto:i-oshima@denkikogyo.co.jp">i-oshima@denkikogyo.co.jp</a>
大塚 昌孝	〒247-8501 神奈川県 鎌倉市 大船 5-1-1 三菱電機株式会社 情報技術総合研究所 アンテナ技術部	0467-41-2557	<a href="mailto:Otsuka.Masataka@eb.MitsubishiElectric.co.jp">Otsuka.Masataka@eb.MitsubishiElectric.co.jp</a>
北 直樹	〒239-0847 神奈川県 横須賀市 光の丘 1-1(808C) 日本電信電話株式会社 アクセスサービスシステム研究所	046-859-4103	<a href="mailto:kita.naoki@lab.ntt.co.jp">kita.naoki@lab.ntt.co.jp</a>
小西 善彦	〒731-5193 広島県広島市佐伯区三宅2-1-1 広島工業大学 工学部 電気システム工学科	082-921-4293	<a href="mailto:y.konishi.5b@cc.it-hiroshima.ac.jp">y.konishi.5b@cc.it-hiroshima.ac.jp</a>
長 敬三	〒275-0016 千葉県 習志野市 津田沼 2-17-1 千葉工業大学 工学部 情報通信システム工学科	047-478-0371	<a href="mailto:cho@m.iece.org">cho@m.iece.org</a>
平賀 健	〒101-0047 東京都千代田区内神田3-6-2アーバンネット神田ビル NTTプロードプラットフォーム株式会社	03-6810-2364	<a href="mailto:hiraga.ken@m.iece.org">hiraga.ken@m.iece.org</a>
本田 和博	〒930-8555 富山県 富山市 五福3190 富山大学 大学院理工学研究所 (工学)	076-445-6759	<a href="mailto:hondak@eng.u-toyama.ac.jp">hondak@eng.u-toyama.ac.jp</a>
道下 尚文	〒239-8686 神奈川県横須賀市走水1-10-20 防衛大学校 電気情報学群 電気電子工学科	046-841-3810 (内)3377	<a href="mailto:naobumi@nda.ac.jp">naobumi@nda.ac.jp</a>
李 可人	〒239-0847 神奈川県横須賀市光の丘 3-4 (YRP-1番館) 国立研究開発法人 情報通信研究機構 ワイヤレスネットワーク総合研究センター ワイヤレスシステム研究室	046-847-5091	<a href="mailto:keren@nict.go.jp">keren@nict.go.jp</a>
森下 久	〒239-8686 神奈川県横須賀市走水1-10-20 防衛大学校 電気情報学群 電気電子工学科	046-841-3810 (内)3377	<a href="mailto:morisita@nda.ac.jp">morisita@nda.ac.jp</a>
松垣 誠	〒212-8582 神奈川県川崎市幸区小向東芝町1 株式会社東芝 研究開発センター ワイヤレスシステムラボラトリー	044-549-2286	<a href="mailto:makoto.higaki@toshiba.co.jp">makoto.higaki@toshiba.co.jp</a>

## 2. 活動予定 (一部実施済)

引継ぎ：3月20日、早稲田大学にて新旧委員長、新旧幹事で実施済。

データベース移管：飴谷様の後任のシステム管理者が必要

カレンダー：執行部の了解を得て20年も100部発行予定。10月には準備開始。

講演会：今年9月は高野先生に依頼済。来年度分を9月頃決定。千葉大伊藤先生が候補。

## 3. 審議予定事項

- ・自由公募では21世紀以降の歴史資料が集まりにくい状況。歴史委で提案・選出を検討。
- ・会員や若手技術者に歴史資料を整理展開する方法を議論。

2019年6月20日

## AP 研表彰委員会報告

AP 研表彰委員長 藤元 美俊

### 【1】2018年度活性化貢献賞

- ・ AP研第二種研究会VJISAP2018, AWAP2018での発表も選考対象となることを選考前に確認し、事前周知済み。AMT研も選考対象となることについては、2012年度に承認、事前周知済み。
- ・ 以下の方に授与する（1名選定、賞金各2万円） ※次点（4回発表）1名

発表 12 回： 西森 健太郎 君（新潟大）

### 【2】2018 年度下期若手・学生奨励賞

- ・ AP 研第二種研究会 VJISAP2018, AWAP2018 での発表も選考対象となることを選考前に確認し、事前に周知済み。AMT 研も選考対象となることについては、2012 年度に承認、事前周知済み。
- ・ 奨励賞投票状況 投票総数: 23 名（投票率 30%）

#### ■ 若手奨励賞（2 名選定、賞金 各 2 万）

13 票： 谷口 諒太郎 君（新潟大）

10 票： 篠崎 友花 君（横浜国大）

※次点 7 票（1 名）。候補者総数 10 名。

#### ■ 学生奨励賞（4 名選定、賞金 各 1 万）

8 票： グェン タイン ビン 君（防衛大）

8 票： 那須 俊哉 君（名工大）

7 票： 生川 菜々 君（富山大）

7 票： 大川 小鉄 君（防衛大）

※次点4票（3名）。対象総数31名。



### **【3】2018年度AP研功労賞**

- ・ 昇格人事等により同一委員会内で役職が変更となる場合は功労賞受賞の対象とすること、再任等により同一の役職で任期が継続する場合は功労賞受賞の対象としない。

○功労賞候補者（36名）；

広川 二郎（東京工業大学），山口 良（ソフトバンク），木村 雄一（埼玉大学），有馬 卓司（東京農工大学），塚本 悟司（豊橋技術科学大学），桧垣 誠（東芝），三浦 周（情報通信研究機構），西森 健太郎（新潟大学），長 敬三（千葉工業大学），岩井 誠人（同志社大学），榊原 久二男（名古屋工業大学），道下 尚文（防衛大学校），西本 研悟（三菱電機），平野 拓一（東京都市大学），山本 学（北海道大学），本間 尚樹（岩手大学），大島 一郎（電気興業），北尾 光司郎（NTTドコモ），黒川 悟（産業技術総合研究所），中澤 進（NHK），山口 聡（三菱電機），日景 隆（北海道大学），深沢 徹（三菱電機），飴谷 充隆（産業技術総合研究所），大塚 昌孝（三菱電機），飯草 恭一（情報通信研究機構），岩井 浩（パナソニック），牧野 滋（金沢工業大学），倉本 昌夫（NECプラットフォームズ），鈴木 康夫（東京農工大学），中野 雅之（KDDI総合研究所），新井 宏之（横浜国立大学），Minseok Kim（新潟大学），西山 英輔（佐賀大学），松永 真由美（東京工科大学），野田 華子（アンリツ）

〔参考〕AP研選奨規程第3条

#### 第3条

アンテナ・伝播研究専門委員会功労賞は，次の(ア)項から(ウ)項のいずれかに該当する者に贈呈する。

(ア)AP研委員長，副委員長，幹事，幹事補佐，委員を退任された方

(イ)AP研内における各種委員会の委員長，幹事，委員を退任された方

(ウ)AP研に著しい功績があったと認められる方

2. 功労賞は賞状とする。

### **【4】2019年2月発行英文誌AP研特集号におけるAP研論文賞**

- ・ 以下の論文を2019年2月発行英文誌AP研特集号におけるAP研論文賞に決定した。

A Low Cost Solution of Hand Gesture Recognition using a Three-dimensional Radar Array  
Shengchang LAN, Zonglong HE, Weichu CHEN, Kai YAO  
IEICE Transactions on Communications, Vol.E102-B, No.2, pp.233-240, Feb. 2019.

### **【5】各賞表彰対象案件の確認**

- ・ 第二種研究会で2019年4月開催のAWAP2019，2019年7月開催のIJAWT2019，2019年8月開催のMJWRT2019，2019年12月開催のPJ-WWRATを各賞の授賞対象とすることが確認され，事前にホームページで周知することになった。
- ・ 各オーガナイズドセッションにおける依頼講演についても各賞の対象とすることを確認した。

以上

## AP 研 国際委員会 報告

委員長 広川 二郎

## 1. 2019 年度委員会体制について（ポスト委員以外の新任のみ抜粋）

- ・委員長：広川二郎，幹事：榊原久二男，委員：Tarik Bin Abdul Latif（マレーシア），Pornanong Pongpaibool（タイ），日景隆，Achmad Munir（インドネシア）

## 2. AP 研国際委員会の担務について

- ・日本国内で，AP 分野に関する国際案件（IEEE も含む）全体を管理運営する組織が無い．現状では個人ベースで対応している．AP 研国際委員会は海外 2 種研に関する管理運営のみを担当しているが，その担務を拡大して AP 研国際委員会が取り扱うか，ISAP 国際委員会が扱うか，関係者を集めた AP 研拡大国際委員会を開催し，そこで議論する方向で検討中である．

## 3. AWAP2019（韓国，タイ，日本の合同会議）報告

- ・2019 年 4 月 24 日(水)－26 日(金)，SHILLA STAY Seocho Hotel（韓国 ソウル）で開催．
- ・発表件数 22 件（キーノート 3，招待 19）日本 8 件，タイ 3 件，韓国 11 件
- ・次回 AWAP2020 を，2020 年 5 月後半をめどに，ベトナム ハノイで，VJISAP と合同で開催することとなった．
- ・所感：韓国は順調に世代交代が進んでいる．この会議の目的は，韓国・タイ・日本の AP メンバーを互いに良く知り合い，友好を継続することなので，日本からも若手の大学教員や研究者の参加を促したい．

## 4. 今後の海外 2 種研開催スケジュール

- PJWWRAT-mini（トライアル）：7 月 4 日（木）マニラ（フィリピン）
- IJAWT2019：7 月 29 日－30 日，バンドン（インドネシア）
- MJWRT 2019：8 月 1 日－2 日，クアラルンプール（マレーシア）
- PJWWRAT2019：12 月 4 日－6 日，マニラ（フィリピン）

	2018	2019	2020
Jan.			
Feb.			
Mar.	iWAT (China) ICCEM (China)	AP-RASC (India)	EuCAP (コペンハーゲン, 3/16-20)
Apr.	EuCAP (London)	EuCAP (Poland) <b>AWAP (Seoul, 4/24-27)</b>	
May	<b>VJISAP (Da Nang, 5/30-6/1)</b>	GSMM (仙台) EMTS (San Diego)	<b>VJISAP/AWAP 合同会議 (Hanoi, 5 月後半)</b>
June		IMS (Boston) PIERS (Rome) TJMW (Bangkok)	

July	APS (Boston) <b>AWAP (Pattaya, Thailand)</b>	<b>PJWWRAT (Manila, 7/4)</b> APS (Atlanta, 7/7-12) <b>IJAWT (Bandon, 7/29-30)</b>	APS (Montreal, 7/4-11)
Aug.	iWEM (Nagoya, JP)	<b>MJWRT (KL, 8/1-2)</b>	URSI-GASS (Rome, 8/29-9/5)
Sep.	EuMW (Madrid)	iWEM (青島, 9/18-20)	
Oct.	ISAP (Busan)	EuMW (Paris, 9/29-10/4) CAMA (Bali, 10/23-25) ISAP (西安, 10/27-30)	<b>ISAP (大阪, 10/26-30)</b>
Nov.	APMC (Kyoto, JP)	APACE (Malaka, 11/25-27)	
Dec.		<b>PJWWRAT (Manila, 12/4-6)</b> APMC (シンガポール, 12/10-13)	
Not Fixed			

(AWAP は毎年開催、MJWRT (マレーシア), VJISAP (ベトナム), IJAWT (インドネシア), PJWWRAT (フィリピン) は隔年開催)

## 研専運営会議報告

2019年6月15日

陳 強

1. 2018年通ソ活性化資金使用報告  
MIKA, WPT 研, AP 研から, 活動状況の紹介があった。
2. 研究会連絡会報告
  - ・聴講参加費の当日現金支払価格は消費税増税後も据え置く
  - ・共催・併催時の参加費を低い金額に合わせることの明文化については, 通ソのみ反対。
3. 年間登録費の割引オプションについて  
括年間登録費 14,000 円と検討。第 2 回研専運営会議で確定。2020 年度より実施。
4. 2019 年度新しい研究会運営検討 WG について  
検討項目
  - ・電子化研究会の活性化・分野横断型活動・学会と企業との関連性強化・選奨費AP 研から有馬先生がメンバーとして参加。
5. 国際会議コンテンツのオープンアクセス価格について  
国際会議コンテンツを、費用を支払ってオープンアクセスとすることはできるだけ避けたい。もしもオープンにする必要がある場合は各ソサイエティ会長の判断。  
継続審議となった。
6. 2019 年度通ソ引継執行委員会報告
  - ・会費未納期間 1 年の人を退会扱いにした結果, 会員数が 3,015 人も減ってしまった。通ソだけでも 1,205 人の減少。通ソの論文投稿数の減少が際立っている。
7. 研究会参加者数の推移  
発表件数や参加者数に対する参加費制導入の影響はほとんどみられない。  
複数研専パックで, 参加者の負担を減らし, 研専の収益を増やし, 研専横断的な活性化も図れると期待している。
8. 研専活性化資金利用活動状況 (自由裁量ベース)  
配分額を半分ほどしか使っていない研専もある。できれば全部使いきって欲しい。2020 年度から選奨費を研専全体で 210 万円以内に抑える必要がある。
9. 通ソ会長・次期会長との意見
  - ・他学会との連携を強化していきたい。総合大会では例えば機械学会と 5G や自動運転に関する取り組みを行った。今後は電気学会との連携も強化したい。
  - ・投稿論文数が減っている。非会員の投稿, 掲載費, オープンアクセスなどの問題を指摘。

## ISAP2020 実行委員会 報告

実行委員会 執行部

会期：2020年10月26日(月)～30日(金)

場所：大阪ナレッジキャピタルコングレコンベンションセンター

<http://www.congre-cc.jp/>

スケジュール

- ・投稿締切：2020年4月24日
- ・採録通知：2020年6月26日
- ・早期登録締切：2020年8月31日

### 【ISAP2020 ホームページの公開】

- ・日本旅行(PCO)により作成
- ・URL: <http://www.isap2020.org/>
- ・ISAP2016のページに沿って作成，ロゴは4/12の実行委員会にて決定

### 【CFPの作成】

- ・Ver.1が完成，国際会議や研究会等で随時配布する。(別紙)

### 【Plenary speech】

- ・日本／中国／欧州(EuCAP)／韓国の4名で決定
- ・欧州はThomas Kuerner氏(EuCAP2021chair)で内諾済，他は候補者調整中。

### 【Invite Talk】

- ・TPCで候補者検討中，Plenary speech講演者確定後決定

### 【公募型オーガナイズドセッション】

- ・件数増加を目的として，公募型オーガナイズドセッションを行う

### 【Student Paper Contest】

- ・3個の企画を行う方向で検討。詳細は会議期間中での実現も含め検討する

### 【催事関係】

- ・ウエルカムレセプション(会場)・バンケット(太閤園)の候補地を確認

### 【展示関係】

- ・100社程度に声かけを行う。展示レセプションの方法は調整中

### 【財務関係】

- ・全体の予算案を詳細にチェック，次回委員会でさらに精度をあげる

### 【International Advisory Committee】

- ・各協賛団体とMOUを進める，Local Advisory Committeeを発足することを決定

次回委員会(第7回)，8/7@都内で開催



# ISAP2020

## Call for Papers

### 2020 INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON ANTENNAS AND PROPAGATION

#### October 26-30, 2020, Osaka, JAPAN

The 2020 International Symposium on Antennas and Propagation (ISAP2020) will be held at Knowledge Capital Congrès Convention Center in Osaka, Japan, from October 26 (Monday) through 30 (Friday), 2020. This Symposium, the 25th ISAP, is sponsored and organized by the Communications Society of the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers (IEICE), and is expected to be technically co-sponsored by the Antenna Measurement Techniques Association (AMTA), the Antennas and Propagation Society of the Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE/AP-S), the Antennas Society of the Chinese Institute of Electronics (AS-CIE), the Electrical Engineering/Electronics, Computer, Communications, Information Technology Association of Thailand (ECTI), the European Association on Antennas and Propagation (EurAAP), the Institute of Antenna Engineers of Taiwan, the Korean Institute of Electromagnetic Engineering and Science (KIEES), and the Taiwan Microwave Association.

#### VENUE

Osaka is located on the main island of Honshu, roughly in the center of Japan. Once known as the Nation's Kitchen, Osaka still holds the title of Food Capital of Japan. Osaka provides a lot of shopping sites with an irresistible experience. The historical capital city of Kyoto, and Nara, an ancient city with numerous World Heritage sites, are all accessible in less than 40 minutes from Osaka.

Knowledge Capital Congrès Convention Center is directly linked via a connecting walkway to JR Osaka Station, the hub of the Kansai rail network.

Grand Front Osaka Knowledge Capital Congrès Convention Center



#### OBJECTIVE

ISAP2020 is intended to provide an international forum for the exchange of information on the progress of research and development in antennas, propagation, electromagnetic-wave theory, and related fields as shown in the SCOPE. It is also an important objective of this meeting to promote mutual interaction among participants.

#### SCOPE

This symposium will treat a wide range of subjects on antennas, propagation and electromagnetic-wave theory as suggested below. Papers concerned with other aspects of these subjects will also be considered. In addition, special topics treating emerging technologies heralding a new era in wireless communications and applications are invited for consideration.

#### A. Antennas

- A1. Small Antennas and RF Sensors
- A2. Antennas for Mobile and V2X Applications
- A3. Broadband and Multi-band Antennas
- A4. Active, Adaptive, On-Chip and Smart Antennas
- A5. Tunable and Reconfigurable Antennas
- A6. Planar/Printed Antennas and Arrays
- A7. Antenna Theory and Design
- A8. Antenna Measurements
- A9. Millimeter-wave, Terahertz and Optical Antennas
- A10. Metamaterials and Metasurfaces for Antennas

#### B. Propagation

- B1. Indoor and Mobile Propagation
- B2. Millimeter-wave, THz and Optical Propagation
- B3. Propagation for V2X and IoT
- B4. Channel Sounding and Channel Estimation
- B5. Radar, DOA, localization and Sensing
- B6. Remote Sensing
- B7. Terrestrial, Earth-Space and Ionospheric Propagation
- B8. Propagation Fundamentals
- B9. Propagation Measurement Techniques

#### C. Electromagnetic-wave Theory

- C1. Computational Electromagnetics
- C2. Time-Domain Techniques
- C3. Scattering, Diffraction and RCS
- C4. Inverse and Imaging Techniques
- C5. Optimization Methods in EM Problems
- C6. Passive and Active Components
- C7. Frequency Selective Surfaces and Filters
- C8. EBG, Metamaterials and Periodic Structures
- C9. Multiscale and Multiphysics Techniques

#### D. AP-related Topics

- D1. Antenna Systems for Mobile Communications
- D2. MIMO and Array Signal Processing
- D3. AP Related Topics for 5G and Beyond
- D4. Wireless Power Transfer Technologies
- D5. Wearable Device Networks and Medical Applications
- D6. OAM and Near Field Communications
- D7. RFID and Its Applications
- D8. EMC/EMI Technologies

#### IMPORTANT DATES

- Deadline for paper submission: April 24, 2020
- Notification of accepted papers: June 26, 2020
- Deadline for early registration: August 31, 2020



## PREPARATION OF PAPERS

Original papers are solicited that have not been presented previously and that describe new contributions in the area suggested in the SCOPE. Each author is requested to prepare a 2-page camera-ready paper in 2-column format written in English, including all text, references, figures and photographs. The authors are requested to refer to the ISAP2020 Web page (<http://www.isap2020.org/>) for the detailed paper preparation instructions and the IEICE Copyright Transfer Form.

## SUBMISSION OF PAPERS

Authors are requested to send their papers in IEEE Xplore-compliant PDF format electronically. Presented papers of ISAP2020 are planned to be included in ISAP Archives and IEEE Xplore.

## WORKSHOP

Several workshops are scheduled to be held on October 26 (Monday), 2020.

## AWARDS

Several outstanding papers will be awarded for ISAP2020 Paper Awards. ISAP2020 also hosts Student Paper Awards in order to foster activities of students toward highly qualified researchers.

## STUDENT DESIGN CONTEST

Student Design Contest (SDC) will be held for the first time in the history of ISAPs during the ISAP2020. The aim of ISAP SDC is to promote student innovation and creative activities in antennas, propagation, and the related research fields. The following three contest categories are prepared; A. Antenna Design, B. Localization of RF Sources, and C. EM Analysis and Observation Competition. Excellent designs will be awarded at the buffet party of the ISAP2020 and will receive cash awards! Detailed information will be announced at the ISAP2020 SDC Web page: <http://www.isap2020.org/sdc.html>

## SPECIAL SECTION ON IEICE TRANS.

The Special Section on ISAP2020 will be planned in the IEICE Transactions on Communications.

## ISAP ARCHIVES

ISAP Archives currently opens as a trial service. You can search and read the conference papers from the ISAP1971 to 2016 at the ISAP Archives Web page: [http://www.ieice.org/cs/isap/ISAP\\_Archives/index.html](http://www.ieice.org/cs/isap/ISAP_Archives/index.html)

## EXHIBITION

Spaces for demonstration of software, books and products are also available with charge.

## WIE (WOMEN IN ENGINEERING)

It is our pleasure to inform that ISAP2020 will launch WIE. WIE is providing opportunities to make global networks and collaboration for ALL ISAP2020 PARTICIPANTS through special sessions and lunchtime events. The detailed information of ISAP2020 WIE will announce in the next CFP and Web site. Our understanding and cooperation will develop AP technologies and community!

## STEERING COMMITTEE

Chairperson	H. Arai (Yokohama National Univ.)
Vice Co-Chairs	H. Iwai (Doshisha Univ.) J. Hirokawa (Tokyo Institute of Tech.) M. Takahashi (Chiba Univ.)
Secretaries	K. Nishimori (Niigata Univ.) N. Michishita (National Defense Academy)
Technical Program	H. Yamada (Niigata Univ.)
Student Contest	T. Takahashi (Mitsubishi Electric)
Registration	T. Sasamori (Hokkai-Gakuen Univ.)
Local Arrangement	M. Fujimoto (Univ. of Fukui)
Social Program	R. Yamaguchi (Softbank)
Exhibition	S. Hori (Kojima Industries)
International Advisory	Q. Chen (Tohoku Univ.) K. Cho (Chiba Institute of Tech.)
Finance	H. Tsuji (NICT) N. Ishii (Niigata Univ.)
Women in Engineering	M. Matsunaga (Tokyo Univ. of Tech.)



Contact E-mail: [ap\\_ac-isap2020@mail.ieice.org](mailto:ap_ac-isap2020@mail.ieice.org)

Sponsored and organized by:

The Communications Society of the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers (IEICE)

Co-sponsored by:

The Antenna Measurement Techniques Association (AMTA), The Antennas and Propagation Society of the Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE/AP-S), The Antennas Society of the Chinese Institute of Electronics (AS-CIE), The Electrical Engineering/Electronics, Computer, Communications, Information Technology Association of Thailand (ECTI), The European Association on Antennas and Propagation (EurAAP), The Institute of Antenna Engineers of Taiwan, The Korean Institute of Electromagnetic Engineering and Science (KIEES), and The Taiwan Microwave Association.

Further information can be found on the Website ► ISAP2020 Web Page : <http://www.isap2020.org>

# ISAP 国際会議委員会報告

ISAP 国際会議委員会

高橋 徹

## ● ISAP 国際会議委員会 (ISAP-JSC; Japanese Steering Committee=国内委員会)の役割

国際会議委員会は ISAP の長期計画の決定（開催場所・時期の選定、ISAP 組織委員長・実行委員長の選出を含む）、趣意書の決定・申請、海外開催 ISAP の支援（電子情報通信学会との共催・協賛申請を含む）、電子情報通信学会が著作権を有する ISAP 出版物の著作権処理・管理、ISAP の繰越金の管理・運営を行う。

## ● 2019 年度 ISAP 国際会議委員会体制

➤ 2019 年 3 月に個人委員選挙を実施。新メンバーリストは次ページ参照。

## ● 2019 年度 ISAP- ISC (International Steering Committee=国際委員会)メンバー

➤ Secretary: 広川、Secretary Elect: 榎原、Member: 高橋(応)、陳

## ● ISAP Archives; [http://www.ieice.org/cs/isap/ISAP\\_Archives/index.html](http://www.ieice.org/cs/isap/ISAP_Archives/index.html)

➤ ISAP2017 を除く、ISAP2018 までの全論文を収録し、オープンアクセスで運用中。

## ● IEICE アーカイブシステム; <https://www.ieice.org/publications/search/>

- IEICE の論文誌、大会、技報、国際会議の全コンテンツを収録することを目指している。(技報はこれからの収録予定)
- 原則有料での公開。個人会員の場合は、国際会議と全国大会等がバンドルされ 3,500 円で購読可能。
- 10 年経過時からは原則オープンアクセスとする予定。
- ISAP に関しては ISAP2012 までの日本開催分について収録済み。海外開催を含む ISAP2016 までの論文については 19 年度中に収録完了予定。また、ISAP2016 まではオープンアクセスとすることが承認されている。ISAP2018 以降の収録については未定。

## ● 今後の ISAP 開催予定

➤ **ISAP2019:** Xi'an Paradise Resort, Xi'an, China, October 27-30, 2019

ホームページ: <http://www.em-conf.com/isap2019/>

➤ **ISAP2020:** 大阪ナレッジキャピタルコンベンションセンター, October 26-30, 2020

ホームページ: <http://www.isap2020.org/>

### ① 実行委員会体制

【執行部】 委員長 新井、副委員長 岩井、広川、高橋(応)、

幹事 西森、道下、幹事補佐 瀧川

【論文】 山田 【Student Contest】 高橋(徹) 【会場】 藤元 【催事】 山口(良)

【登録】 笹森 【展示】 堀 【財務】 Co-Chairs 辻, 石井 【International Advisory Committee】

(渉外を含む) Co-Chairs 陳、長 【Woman in Engineering】 松永

② 2019 年 10 月にプレ ISAP となる AP 研を大阪にて開催予定。

➤ **ISAP2021:** 台湾(台北)開催が承認済み。



## ■2019年度 ISAP 国際会議委員会体制

委員区分 (役職)	氏名	所属	
1 ポスト委員 (前委員長) (次期ISAP委員長)	新井宏之	横浜国立大学	大学院物理情報工学専攻
2 個人委員 (前副委員長)	長 敬三	千葉工業大学	工学部 情報通信システム工学科
3 個人委員 (前総務幹事)	高橋 徹	三菱電機	情報技術総合研究所 アンテナ技術部
4 個人委員 (前会計幹事)	中野雅之	(株)KDDI総合研究所	無線プラットフォームグループ
5 個人委員 (前会計幹事代行)	石井 望	新潟大学	工学部 福祉人間工学科
6 個人委員	有馬 卓司	東京農工大学	工学部 電気電子工学科
7 個人委員	今井哲朗	(株)NTTドコモ	無線アクセス開発部
8 個人委員	岩井誠人	同志社大学	理工学部 電子工学科
9 個人委員	菊間 信良	名古屋工業大学	つくり領域 電気・機械工学専攻
10 個人委員	北 直樹	日本電信電話(株)	アクセスサービスシステム研究所
11 個人委員	木村 雄一	埼玉大学	工学部 電気電子システム工学科
12 個人委員	黒川 悟	産業技術総合研究所	計量標準総合センター 物理計測標準研究部門
13 個人委員 (AP研国際委員会委員長) (ISC Secretary Elect)	榊原 久二男	名古屋工業大学	ながれ領域
14 個人委員	辻 宏之	情報通信研究機構	オープンイノベーション推進本部ソーシャルイノベーションユニット戦略的プログラムオフィス 研究企画推進室
15 個人委員	西森 健太郎	新潟大学	工学部情報工学科
16 個人委員 (ISC Secretary)	広川二郎	東京工業大学	工学院電気電子系
17 個人委員	山口 良	ソフトバンク	研究本部 無線ソリューション研究部
18 ポスト委員 (前ISAP委員長) (URSI-B Chair)	宇野 亨	東京農工大学	大学院工学研究院 先端電気電子部門
19 ポスト委員 (AP研委員長) (ISC Member)	陳 強	東北大学	大学院工学研究科 通信工学専攻
20 ポスト委員 (EMT委員長)	平山 浩一	北見工業大学	地域未来デザイン工学科
21 ポスト委員 (AP-S Tokyo Chair) (ISC Member)	高橋 応明	千葉大学	フロンティア医工学センター
22 ポスト委員 (AP-S Nagoya Chair)	藤元 美俊	福井大学	大学院工学研究科 情報・メディア工学専攻
23 ポスト委員 (AP-S Kansai Chair)	出口 博之	同志社大学	理工学部電子工学科
24 ポスト委員 (AP-S Fukuoka Chair)	豊田 一彦	佐賀大学	大学院工学系研究科 電気電子工学専攻
25 ポスト委員 (AP-S AdCom Member)	伊藤 公一	千葉大学	フロンティア医工学センター
26 ポスト委員 (AP-S AdCom Member)	福迫 武	熊本大学	情報電気電子工学科
27 ポスト委員 (URSI-F Chair)	佐藤源之	東北大学	東北アジア研究センター
28 委員長推薦委員	大島 一郎	電気興業(株)	技術開発統括部 電気通信開発部
29 委員長推薦委員	松沢 晋一郎	(株)豊田中央研究所	システム・エレクトロニクス2部 電磁応用研究室

## アンテナ・伝搬チュートリアル特集講演会 活動報告書

2019年6月20日

**委員会名：**

&lt;第二種研究会&gt;アンテナ・伝搬チュートリアル特集講演会（第1回）実行委員会

**委員長名（所属）：**

広川 二郎（東工大）

**幹事名（所属）：**

木村 雄一（埼玉大）、深沢 徹（三菱電機）

**実行委員（所属）：**

飴谷 充隆（産総研）、有馬 卓司（農工大）、山口 良（ソフトバンク）

**研究会活動（名称、開催日、場所、発表形式、発表件数、参加者数、共催学協会、その他）****名称：**アンテナ・伝搬チュートリアル特集講演会（第1回）実行委員会

「近年の無線通信およびセンシングを支える最新のアンテナ H/W 技術」

**発表者（講師）：**道下 尚文（防衛大）、高橋 応明（千葉大）、広川 二郎（東工大）、森下 久（防衛大）**会場：**東京工業大学大岡山キャンパス西9号館デジタル多目的ホール**日時：**2019年5月10日 13:00~18:00**発表形式等：**受講者に対する集中講義（ハンドアウト配布、PCプロジェクタ使用）**参加者：**130名（受講者）+9名（講師、委員）**主催：**電子情報通信学会 通信ソサイエティ**共催：**AP研、SAT研、SANE研、RCS研、WPT研**協賛：**IEEE AP-S Tokyo Chapter、MW研**活動状況**

- ・これまで第一種研究会内で実施されてきたチュートリアル講演の中から同分野または関連のある内容の講演を4名の講師に連続して講演いただいた。
- ・今回の講演会では、アンテナ H/W 技術に焦点を当て、メタマテリアル、人体近接アンテナ、ミリ波アンテナ、キャラクターリスティックモード解析を選定した。
- ・受講料は無料とし、通ソ主催の二種研として開催した結果、参加者の3割が非会員、7割以上がAP研以外を主研究会とする方々であった。講演会の後には参加者間の交流を深めるための懇親会も開催し、普段AP研とつながりの少ない方々との交流の場として大変有用であった。
- ・講演会の中で質問も数多くなされており、当該分野の需要は高いことがうかがえた。
- ・講演会にて信学会や研究会活動の宣伝も実施しており、今後の会員増や研究会への参加者増が期待される。

**連絡先 および 資料保管先(氏名、所属、TEL、E-mail):**

深沢 徹、三菱電機（株）情報技術総合研究所アンテナ技術部

TEL:0467-41-2533, E-mail:Fukasawa.Toru@dr.mitsubishielectric.co.jp

**添付資料：（別紙）**

## アンテナ・伝搬チュートリアル特集講演会 会計報告

2019年6月20日

## 委員会名：

&lt;第二種研究会&gt;アンテナ・伝搬チュートリアル特集講演会（第1回）実行委員会

## 委員長名（所属）：

広川 二郎（東工大）

## 設置期間：

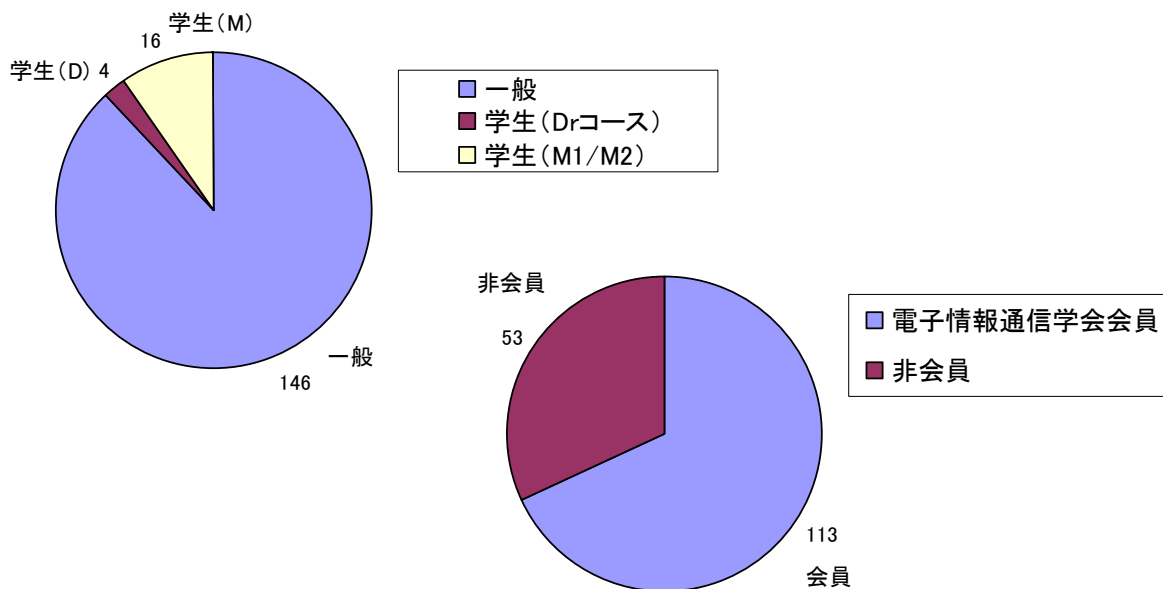
2019年1月1日～2019年5月10日

<収入>		<備考>	
受講料	0円		
AP研専からの補助	0円		
利息	0円		
合計	<u>0円</u>		
<支出>		<備考>	
ハンドアウト印刷費	66,150円	180部	
講師謝金(源泉含む)	44,548円	11,137円×4名	
懇親会費、茶菓子代	105,810円	懇親会60名、茶菓子155名	
会場費	31,237円		
委員会費	24,000円		
合計	<u>271,745円</u>		
残高（収支合計）	-271,745円		

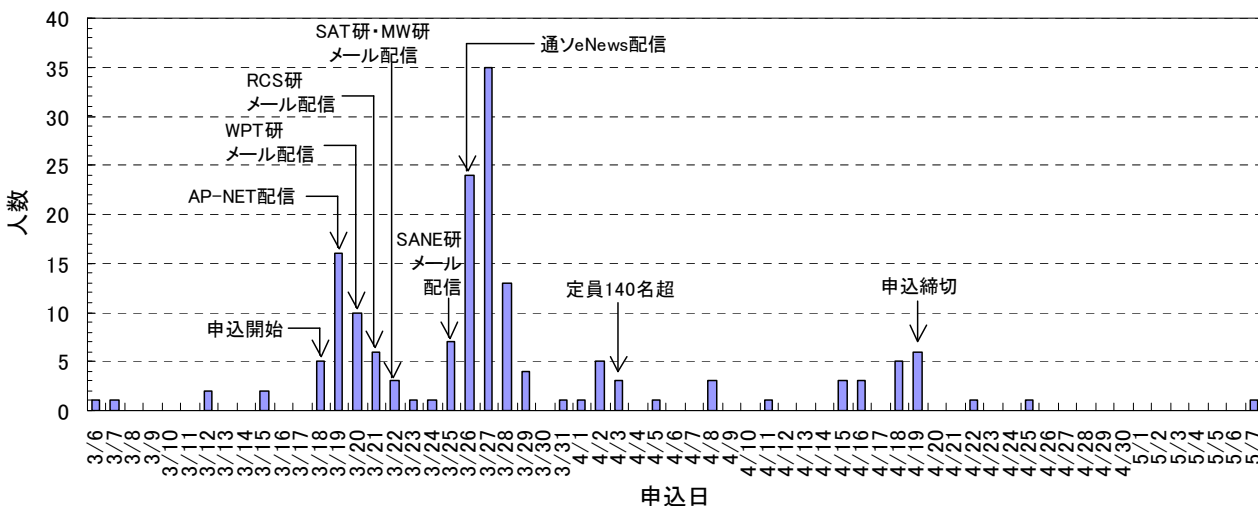
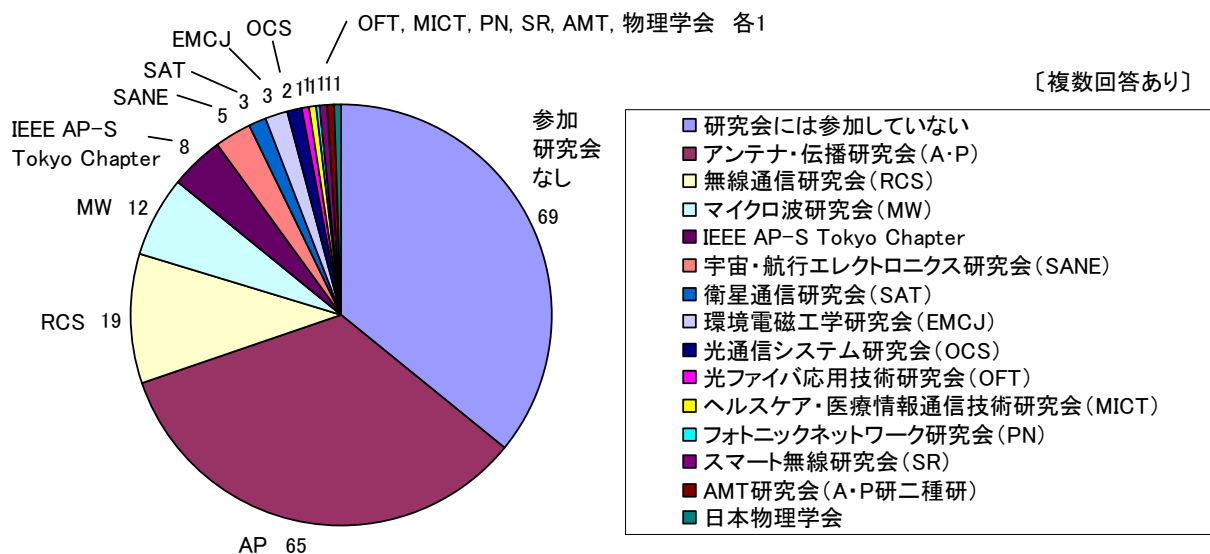
経費はAP研専活動費から拠出

アンテナ・伝搬チュートリアル特集講演会（2019/5/10） 参加申込者集計

■ 参加申込者数 166名



■ 主に参加している研究会



## ■ 参加者の所属

参加者所属			
一般		学生	
AGC	パナソニック	大日本印刷	横浜国立大学
AGC	パナソニック	電気興業	京都大学
CQ-Sネット	パナソニック	電子航法研究所	京都大学
CQ出版	パナソニック	電設コンサルタンツ	埼玉大学
IEICE	パナソニック	東京コスモス電機	千葉工業大学
JAIST	パナソニック	東京海洋大学	千葉大学
JAXA	パナソニック	東京工科大学	千葉大学
JSOL	パナソニック	東京工芸大学	筑波大学
jujube	パナソニック	東京大学	東京工科大学
KDDI総合研究所	パナソニック	東京理科大学	東京工業大学
KDDI総合研究所	パナソニック	東芝	東京工業大学
NECネットエスアイ	ミツミ電機	東芝	東京工業大学
NECマグナスコミュニケーションズ	ヤマハ	東芝	東京工業大学
NTTドコモ	ヨコオ	東芝インフラシステムズ	東京大学
NTTファシリティーズ	リケン	東芝エレベータ	東京大学
アイアプリ	ワカ製作所	日本イーエスアイ	東京農工大学
アイシン精機	旭化成	日本モレックス	日本工業大学
旭化成	旭化成	日本航空電子	防衛大学校
アナログ・デバイスズ	旭化成エレクトロニクス	日本電気	防衛大学校
アルプスアルパイン	旭化成エレクトロニクス	日本電気	防衛大学校
アルプスアルパイン	沖電気	日本電気	
アルプスアルパイン	沖電気	日本電気硝子	
アルプスアルパイン	沖電気	日本電業工作	
エンプラス	加藤電気工業所	日本電業工作	
エンプラス	華為技術日本	日本電業工作	
カシオ計算機	海上保安大学校	日本電業工作	
カシオ計算機	京セラ	日本特殊陶業	
セイコーエプソン	共和電業	日本無線	
積水化学工業	玉川大学	日本無線	
ソニー	金沢村田製作所	日本無線協会	
ソニー	群馬大学	日本無線協会	
ソニー	原田工業	日立国際電気	
ソニー	古河電気工業	日立製作所	
ソニー	古河電工	八光オートメーション	
ソニー	古河電工	富士通コンポーネント	
ソニー	構造計画研究所	富士通コンポーネント	
ソニー	三省電機	富士通システム統合研究所	
ソニー	三菱電機	富士通ネットワークソリューションズ	
ソニー	三菱電機	富士通フロンテック	
ソニー	産業技術総合研究所	富士通研究所	
ソニー	産業技術総合研究所	富士通研究所	
ソニー	産業技術総合研究所	防衛大学校	
ソニー	産業技術総合研究所	防衛大学校	
ソニー	小池誠マイクロ波研究所	防衛大学校	
タイセー	情報通信研究機構	防衛大学校	
タイセー	情報通信研究機構	北海学園大学	
テラバイト	情報通信研究機構		
テラバイト	植田技術士事務所		
パナソニック	村田製作所		
パナソニック	村田製作所		

## アンテナ・伝搬チュートリアル特集講演会 アンケート

アンテナ・伝搬チュートリアル特集講演会 『近年の無線通信およびセンシングを支える最新のアンテナ H/W 技術』に、ご参加頂き有り難うございました。ワークショップをさらに有意義なものとし、継続していくために、皆様の貴重なご意見をお聞かせ願いたいと存じます。以下の設問に対して、適当と思われる回答の番号に○印をお願いします。なお、コメントがありましたら、適当な空白部分にお書きください。ご記入後は、お帰りの際に、出口のアンケート回収箱へご投函ください。

## 1. 今回のワークショップ内容、進め方について

## (1) 今回のワークショップに満足ですか？

(1.不満, 2.やや不満, 3.普通, 4.やや満足, 5.満足)

1.不満	2.やや不満	3.普通	4.やや満足	5.満足
1	0	13	33	54

## (2) ワークショップのレベルは？

(1.難しい, 2.やや難しい, 3.丁度良い, 4.やや易しい, 5.易しい)

1.難しい	2.やや難しい	3.丁度良い	4.やや易しい	5.易しい
1	23	69	8	0

## (3) 特に、興味深かった点、満足した点をお聞かせ下さい

- ・メタ材料
- ・CMA
- ・どれも面白かったが、人体やヘルメットは具体的で身近に感じた
- ・広川先生のミリ波アンテナ
- ・人体近接アンテナ CM解析
- ・メタマテを利用した材料開発を計画しており、道下先生の発表で基本原理がわかりやすくよかった
- ・メタマテリアルアンテナの講演が興味深かった
- ・キャラクターリスティックモードの講演は初めて聞くことができ興味深かった
- ・特に人体アンテナ 人体を利用した電界放射するスロットアンテナ
- ・各テーマの最新の研究動向を知ることができた
- ・メタマテリアルアンテナの考え方、評価指標
- ・CM解析を使用したアンテナ設計 従来の設計手法とは異なり興味が湧いた
- ・メタマテの設計思想の概要について非常に興味深くよいお話だった
- ・メタマテリアルの設計方法の部分が勉強になり興味深かった
- ・人体近接アンテナ法を今回のようにまとまった形で聞ける機会はめずらしく、よい内容だった
- ・人体近接アンテナ
- ・実際のアンテナ、アンテナ試作例
- ・幅広い内容を短時間で知ることができた
- ・CM解析
- ・ウェアブルアンテナやヘルメットが興味深かった
- ・各トピックについて大まかに内容を知ることができた
- ・メタマテリアル昨日の説明が理解しやすかった
- ・人体近接アンテナ
- ・メタマテリアル/CM解析に関して知識がなかったので興味深かった
- ・メタマテリアルの説明
- ・キャラクターリスティックモード解析は、モード解析の手法としては面白いと思った
- ・RFID 関連

- ・近年のアンテナ研究について大変勉強になった
- ・高橋先生の人体解析アンテナ
- ・実例具体例のほうで今後の設計の参考になった
- ・理論のみではなく製造観点での課題も検証していた点
- ・ウェアブルアンテナについて
- ・ヘルメットアンテナの研究が興味深かった
- ・マイクロ波が楽しかった
- ・メタマテリアル情報
- ・講師の方々のお考えを直に聞けるところがよかった
- ・マイクロ波 ANT に関する理解が深まった
- ・具体的なアンテナ設計を含めて幅広く最近の話題をお聞きできたこと 設計のノウハウ等
- ・メタマテリアルの設計
- ・人体近接アンテナの応用の広さが興味深かった
- ・CMA 解析について詳しい話を聞いたのははじめてで興味深かった
- ・人体近接アンテナ、CMA 解析
- ・メタマテリアルについて知れてよかった
- ・道下先生の講演内容は大変興味深かった 勉強して理解を深めたい
- ・基本的なことが説明されていた点
- ・広川先生のミリ波アンテナの部分は興味がある部分であったのでよかった
- ・メタマテリアルの実際に使用されている例
- ・いま注目されている研究テーマのポイントを短時間に勉強できた
- ・メタマテリアルアンテナについて
- ・ミリ波アンテナの導波路制作、キャラクターリスティックモード解析
- ・半日で4つの異なるテーマを聞けてよかった
- ・メタマテリアルアンテナ、CM 解析について詳しく知ることができた
- ・人体アンテナ ミリ波
- ・多岐にわたる分野の話を聞けて知見が広まり良い機会だった
- ・ヘルメットアンテナについて新しい考え方は興味深かった
- ・メタマテリアルアンテナの設計プロセス
- ・人体近接アンテナに関して、様々なパターン（種類）を紹介して頂き勉強になった
- ・メタマテリアルアンテナ、ミリ波アンテナ、のテーマ全般。キャラクターリスティックモードの設計手法
- ・無料でこれだけの内容を講演頂いたのは素晴らしいと思いました ありがとうございます
- ・人体近接アンテナの設計、特に CMA については興味深かった
- ・マイナス次の共振が興味深かった 段数=マイナス共振の数？
- ・メタマテリアルの歴史は特によかった 研究の移動を専門の人に話してもらうことはとても勉強になる
- ・ミリ波アンテナの全体像を確認できた
- ・おそらく最新の研究で、背景を含めて勉強になった
- ・実用的な面が扱われている点がよかった
- ・基礎から丁寧に説明して下さい、また実際にすぐ使えるようなコツ等もかなりよかった
- ・具体的な設計例が多く、技術のイメージがしやすく、よかった
- ・メタマテリアルの特徴が興味深い
- ・アンテナは専門外ですが初心者でも比較的理解しやすい内容だった
- ・人体の影響に対するアプローチ方法

(4) 特に、分かりにくかった点、不満な点をお聞かせ下さい

- ・時間の制約上、早口になられて聞きとりにくかった

- ・ヘルメットアンテナで  $50\Omega$  整合が必要な理由
- ・メタマテリアルを使用したアンテナ
- ・CM 解析の原理について詳しくしりたかった
- ・全体的に発表時間が短かった印象（やむを得ないと思うが）
- ・（仕方ないことであるが）講演時間が短かった
- ・時間が短いように感じた 一つの講演内容に対して
- ・入口がすこし分かりにくかった
- ・各テーマの時間が少々短く感じた
- ・「最新の・・・」という講演会で、数年～10年ほど前の今はどうなっているかわからない話は不要
- ・説明が早い部分
- ・CMA のメリット
- ・ミリ波のモバイルへの応用についてもう少し詳しく聞きたかった
- ・メタマテリアルアンテナの詳細点が聞けなかった
- ・CM 法の原理は把握したが不要な部分を取り除く方法を深く知りたい
- ・メタマテリアルについては時間が短く理解するのが難しかった
- ・人体影響（SAR）の実情を詳しくしりたかった
- ・広川先生の説明が早すぎて聞きにくかった
- ・キャラクタースティックモードで、なぜ防災用ヘルメット？と思っていた点があったので勿体ないと感じた
- ・1 講演 90 分くらいあってもよいのでは
- ・飛ばすスライドが多く感じた
- ・固有値解析では  $\beta$  だけ？  $\omega - \alpha$  がコンプレックスモードは考慮したりすることもあるかどうか気になった
- ・配布資料がカラーじゃなくても、グラフがあるようになっていて、見返した時に良いと思った
- ・メタマテリアルで実現できること、実現できないことの整理されたじょうほうがあれば
- ・レベルはちょうどよいが、駆け足で理解度がもう少し上げたい
- ・講師が大学の先生なので実用的な応用を説明するには無理がある
- ・話が早くてときどきついていけなかった
- ・内容の充実度と講演時間が合っていないものもあった
- ・理論的な内容が理解できていないと、途端に理解が追いつけなくなってしまった
- ・概念的に仕方ないことかもしれませんが、ハイペースで省略された内容があること

## 2. ワークショップの無料化について

(1) 今回のワークショップはトライアルとして無料で実施しました。次回のワークショップを開催する場合、

(1. 無料であれば参加したい、2. 有料でも参加したい、3. 内容が希望するものであれば有料でも参加したい)

1. 無料であれば参加したい	2. 有料でも参加したい	3. 内容が希望するものであれば有料でも参加したい
44	52	5

(2) 上記質問で 2,3 とご回答した方で、許容する参加料をご回答ください。

(1. 3,000 円以下、2. 5,000 円以下、3. 10,000 円以下、4. それ以上)

1. 3,000 円以下	2. 5,000 円以下	3. 10,000 円以下	4. それ以上
13	29	13	2

## 3. 今後の企画について



今回のワークショップはアンテナ・伝播研究会の第一種研究会で実施してきた主にシニアの研究者によるチュートリアル講演をベースとしています (<http://www.ieice.org/cs/ap/jpn/index.php?ken/tutorial>)。本アンケートの裏面に過去のリストを掲載しています。

(1) 裏面のリストの今後聞いてみたい講演に○つけをお願いします(複数回答可)。

集計	2018年度†
17	1. ○木村雄一(埼玉大)：マイクロストリップアンテナのマルチバンド設計と特性可変技術 (AP2018-3, Apr. 2018)
15	2. ○福迫 武(熊本大)：円偏波アンテナに関する考察とその広帯域化への挑戦 (AP2018-23, May. 2018)
12	3. ○笹森崇行(北海学園大)：平衡アンテナの入力インピーダンス測定法～Sパラメータ法の高精度化の検討～ (AP2018-50, July 2018)
17	4. ○道下尚文・森下 久(防衛大)：電磁メタマテリアルのアンテナ応用 (AP2018-75, Aug. 2018)
6	5. ○西村寿彦・大鐘武雄・小川恭孝(北大)：アレー信号処理とその解法アルゴリズムの基礎 (AP2018-86, Sep. 2018)
16	6. ○本間尚樹(岩手大)：MIMO アンテナの相関特性の評価 (AP2018-95, Oct. 2018)
4	7. ○林 和則(阪市大)：確率伝搬法の基礎とその応用 (AP2018-113, Nov. 2018)
20	8. ○野口啓介(金沢工大)：電気的小形アンテナのQ値と広帯域化 (AP2018-157, Jan. 2019)
4	9. ○紀平一成(三菱電機)：時間変調アレーによる低サイドローブ化技術 (AP2018-176, Feb. 2019)
8	10. ○齋藤健太郎・高田潤一(東工大)：アレー信号処理によるMIMOチャネル伝搬パラメータ推定 (AP-2018-??, Mar. 2019)
	2017年度†
23	1. ○真田篤志(阪大)：メタマテリアルと透明マント (Apr. 2017)
10	2. ○山口 良(ソフトバンク)：移動通信アンテナ・伝搬測定における仮想アレーアンテナ技術の適用 (AP2017-33, May 2017)
6	3. ○菊間信良・田中健佑・榊原久二男(名工大)：アレーアンテナを用いた電波源位置推定の今昔物語 (AP2017-61, July 2017)
3	4. ○丸山珠美(函館高専)：函館高専学生によるワイヤレス電力伝送、リフレクタアレー、およびGAに関する研究 (AP2017-78, Aug. 2017)
12	5. ○大平昌敬(埼玉大)：フィルタリングアンテナの設計法 (AP2017-93, Sep. 2017)
5	6. ○本田和博(富山大)：開発した端末アンテナのOTA評価 (AP2017-103, Oct. 2017)
3	7. ○北尾光司郎・今井哲朗(NTTドコモ)：移動通信システム用チャネルモデルの進化について～第1世代から第5世代のモデルについて～ (AP2017-140, Nov. 2017)
3	8. ○塚本悟司(豊橋技科大)：無線電力伝送システムの設計キーポイント (AP2017-159, Jan. 2018)
7	9. ○高橋 徹(三菱電機)：位相変調によるフェーズドアレーキャリブレーション技術 (AP2017-179, Feb. 2018)
6	10. ○羽賀 望(群馬大)・高橋応明(千葉大)：インピーダンス展開法～モーメント法に基づく電氣的超小形デバイスの回路モデリング手法～ (AP2017-194, Mar. 2018)
	2016年度†
2	1. ○常川光一・楊 程(中部大)：地方中小都市に適した自律分散制御かつ自己連結型エネルギーマネジメントシステムの構築 (AP2016-10, Apr. 2016)
7	2. ○山田寛喜・大橋 卓・山口芳雄(新潟大)：レーダ・アレー信号処理のためのスパース信号処理入門 (AP2016-23, May 2016)
5	3. ○辻 宏之(NICT)：航空機搭載用衛星追尾アンテナの開発と展望 (AP2016-60, SAT2016-26 Jul. 2016)
10	4. ○田口光雄(長崎大)：不平衡超低姿勢逆Lアンテナを用いた各種高機能アンテナ (AP2016-84, Aug. 2016)
15	5. ○飴谷充隆・黒川 悟(産総研)：ミリ波帯アンテナ校正の現状と不確かさ積算の勘所 (AP2016-103, Sep. 2016)
3	6. ○林 和則(京大)：圧縮センシングと関連する話題 (AP2016-111, RCS2016-195 Nov. 2016)
4	7. ○西 正博・新 浩一(広島市大)：地上デジタル放送における異常伝搬対策技術の検討 (AP2016-140, WPT2016-49 Jan. 2017)

3	8. ○中野雅之 (KDDI 総合研究所) : 無線セル品質を改善する基地局アンテナとシステム技術 (AP2016-172, Feb. 2017)
6	9. ○有馬卓司・宇野 亨 (東京農工大) : 生体の誘電率などの電気定数が周波数に依存する媒質の FDTD 法解析手法 (AP2016-195 Mar. 2017)
	2015 年度 †
11	1. ○牧野 滋 (金沢工大) : 周波数選択板の基礎と応用 (AP2015-5, Apr. 2015)
2	2. ○笹岡 秀一 (同志社大) : 電波伝搬特性に基づく物理層情報セキュリティ (AP2015-21, May 2015)
10	3. ○山本 学 (北大) : 広帯域プリントダイポール及びスロットアンテナの設計と応用 (AP2015-49, July 2015)
	4. ○中村弘樹・安藤敏之・岩竹俊一・村野慎介・宮根康一・北野延明 (日立金属) : 無線 LAN 用発泡ポリエチレン絶縁漏えい同軸ケーブル (AP2015-66, Aug. 2015)
2	5. 下田 剛・○傍島幸司 (電気興業) : 物作りから見たアンテナの魅力 (AP2015-81, Sep. 2015)
1	6. ○櫻木勘四郎 (KDDI 研) : 30 年間の研究生活を振り返って ～ 衛星通信、コグニティブ無線、標準化など ～ (AP2015-104, Oct. 2015)
3	7. ○平山 裕 (名工大) : 整合と共振の観点から見た結合型無線電力伝送 (AP2015-113, Nov. 2015)
7	8. ○吉敷由起子 (構造計画研) : レイトレース法の適用範囲と応用 (AP2015-180, Jan. 2016)
5	9. ○袁 巧微 (仙台高専) : 無線電力伝送システムにおける最適インピーダンスと最大効率 (AP2015-198, Feb. 2016)
2	10. ○村上友規・福岡隼人・鷹取泰司・溝口匡人 (NTT) : 伝搬路の可逆性を利用したマルチユーザ MIMO 伝送 (AP2015-214, Mar. 2016)
	2014 年度 †
1	1. ○出口博之・辻 幹男 (同志社大) : 多モードホーン及び周波数選択膜の電磁界解析基礎および設計例について (AP2014-9, Apr. 2014)
4	2. ○中條 渉 (名城大)・真鍋武嗣 (阪府大)・山本伸一 (NICT) : ミリ波衛星通信のための降雨減衰補償ダイバーシティ技術 (AP2014-58, July 2014)
5	3. ○石井 望 (新潟大)・浜田リラ・渡辺聡一 (NICT) : 液体中におけるアンテナ利得測定 (AP2014-85, Aug. 2014)
3	4. ○鈴木 博 (東工大) : 移動無線通信における高速伝送技術 (AP2014-98, Sep. 2014)
6	5. ○渡辺 文夫 (KDDI 研) : 移動体通信システムの最新動向 ～ アンテナ・伝播への期待 ～ (AP2014-118, Oct. 2014)
1	6. ○中島健介・齊藤 敦 (山形大)・有吉誠一郎 (名工大)・山田博信 (山形大)・ベイ ジョンソク (名工大)・大嶋重利 (山形大) : 多重機能スパイラルを集積した超伝導マイクロ波カイネティックインダクタンス検出器(MKIDs)の開発 (AP2014-145, Nov. 2014)
4	7. ○松永真由美 (愛媛大) : 私を魅了したアンテナと電波伝搬の世界 ～ 電磁界理論解析、テラヘルツ波アンテナ、構造物周囲の伝搬解析そして簡便構造の多機能アンテナ ～ (AP2014-172, Jan. 2015)
10	8. ○稲沢良夫・西岡泰弘・宮下裕章 (三菱電機) : レーダ断面積の近傍界/遠方界変換測定法について (AP2014-196, Feb. 2015)
2	9. ○八木谷 聡・尾崎光紀・井町智彦 (金沢大) : ジオスペースにおける電磁波計測技術 (AP2014-214, Mar. 2015)
	2013 年度 †
18	1. ○篠原 真毅 (京大) : 無線電力伝送のためのアンテナ技術 ～ フリスを超えて ～ (AP2013-9, Apr. 2013)
1	2. ○西山 英輔, 豊田 一彦, 牛嶋 優 (佐賀大), Md. Azad Hossain (CUET) : 直交励振モードを活用した機能アンテナ (AP2013-21, May 2013)
2	3. ○小園 茂, 中林 寛暁 (千葉工大) : 多重波伝搬路の移動無線チャネル化に挑む (AP2013-40, June 2013)
2	4. ○辻 宏之, 三浦 周, 岡田 和則, 織笠 光明 (NICT), 藤野 義之 (東洋大), 豊嶋 守生 (NICT) : 衛星/地上共用携帯電話システムの開発と現状 (AP2013-56, July 2013)
4	5. ○真田 篤志, 永山 務 (山口大) : 変換電磁気学の基礎 (AP2013-67, Aug. 2013)
9	6. ○小川 勝, 松沢 晋一郎, 佐藤 和夫 (豊田中研) : 車載ミリ波レーダの開発動向 (AP2013-83, Sep. 2013)
19	7. ○廣瀬 雅信 (産総研) : アンテナ近傍界の測定による利得・パターンへの三種の変換法 ～ 標準的な近傍界測定法, 振幅中心・パターン鋭さ係数による測定法, Kim 法 ～ (AP2013-91, Oct. 2013)

4	8. ○井原 泰介, 川合 裕之, 吉原 龍彦, 吉田 翔 (NTT ドコモ) : 移動通信用基地局アンテナの開発と現状 (AP2013-122, Nov. 2013)
2	9. ○恵比根佳雄 (日本電業工作) : 移動通信用基地局アンテナにおける開発の歴史 ~ 第1世代、第2世代用として ~ (AP2013-158, Jan. 2014)
4	10. ○嶽野秀三 (日大) : 電波の生体影響に関する2, 3の話題 (AP2013-189, Mar. 2014)
	2012年度†
2	1. ○平松 勝彦, 星野 正幸, 西尾 昭彦 (パナソニック) : 移動通信の標準化動向とその実現上の課題について (AP2012-10, Apr. 2012)
3	2. ○福迫 武 (熊本大) : 円偏波アンテナの高機能化を目指した給電方法の提案と考察 (AP2012-20, May 2012)
2	3. ○今井 哲朗, 北尾 光司郎 (NTT ドコモ) : 市街地マクロセル環境における移動伝搬特性の総括 (AP2012-55, July 2012)
4	4. ○庄木 裕樹 (東芝) : ワイヤレス電力伝送技術の実用化に向けた課題と取り組み (AP2012-78, Aug. 2012)
1	5. ○Hiroyasu Sato, Kunio Sawaya, Koji Mizuno (Tohoku Univ.) , Masamune Takeda (Maspro Denkoh) , Keiichi Morichika (CEC) : 77 GHz Passive Millimeter-wave Imaging Device for Security Applications (AP2012-87, Sep. 2012)
2	6. ○藤元 美俊 (福井大) : 多重波伝搬環境におけるOFDM伝送 (AP2012-97, RCS2012-164, Nov. 2012)
4	7. ○多賀 登喜雄 (関西学院大) : ITS車車間通信環境における伝搬損失モデル (AP2012-145, Jan. 2013)
1	8. ○苅辺 正敏, 西村 崇 (日本電業工作) : 移動通信基地局アンテナのチルト角制御と移相器 (AP2012-149, Jan. 2013)
8	9. ○高橋 応明 (千葉大) : 体内植込み型アンテナに挑む (AP2012-150, Jan. 2013)
1	10. ○小川 晃一 (富山大) : 端末スマートアンテナシステムの性能評価技術 (AP2012-163, Feb. 2013)
5	11. ○武田茂樹・鹿子嶋憲一 (茨城大) : MIMO デカップリング回路の設計法 (AP2012-171, Mar. 2013)
	2011年度†
2	1. ○陳 強 (東北大) : 変調散乱法による電波の測定とマルチアンテナの構成技術 (AP2011-57, Aug. 2011)
19	2. ○黒川 悟, 廣瀬 雅信 (産総研) : アンテナ測定の結果はどの程度正しいですか (AP2011-58, Aug. 2011)
4	3. ○広川 二郎 (東工大) : ミリ波帯アンテナにおける伝送損失低減導波路のいろいろ (AP2011-67, Sep. 2011)
4	4. ○久保田 文人 (TELEC) : ワイヤレス電力伝送技術実用化の課題 ~法制面、安全面について~ (AP2011-83, Oct. 2011)
1	5. ○西森 健太郎 (新潟大) : MIMO伝送における新たな利用方法について (AP2011-106, Nov. 2011)
1	6. ○市坪 信一, 宮田 康正, 川島 大地 (九工大) : マイクロセル移動伝搬の周波数特性 (AP2011-163, Jan. 2012)
1	7. ○藤井 輝也, 太田 喜元 (ソフトバンクモバイル) : 屋内端末静止、周辺移動環境下におけるチャンネルモデル ~ 端末自移動のチャンネルモデル(Clark Model)との大きな差異 ~ (AP2011-174, Jan. 2012)
8	8. ○深沢 徹, 柳 崇, 宮下 裕章, 小西 善彦 (三菱電機) : 小形アンテナ測定におけるケーブルの影響の低減法 (AP2011-194, Feb. 2012)
7	9. ○森下 久 (防衛大) : アンテナの折返し構造を思考する (AP2011-202, Mar. 2012)

(2) 裏面のリスト以外で聞いてみたい内容があれば下記に記載をお願いします。

- ・5Gで用いられるMIMO/ビームフォーミングについて聞いてみたい
- ・OAM、APと機械学習のコラボ (アンテナ最適設計や伝搬路推定への応用)
- ・フルデジタルのAPAA
- ・グリーン関数 NF変換
- ・アンテナ設計の基礎的な考え方、手法に関する講演
- ・無線
- ・MASSIVE MIMO用アンテナの評価方法
- ・SARに関する評価
- ・電波伝搬の基礎
- ・メタマテリアルの応用と設計手法について

4. その他、ご意見がございましたら、ご自由にお書き下さい。

- ・研究結果や活動内容などの最新の技術が見られてよかった。
- ・アンテナに関して、シミュレーション過程、設計手法などの説明がほしかった（設計現場で活用できるような）
- ・材料の説明などがあると良かった
- ・今回の講演資料はオープンにして頂けるのでしょうか？
- ・今回が初めてのトライアルとのことですが、最初からアンケートをしてテーマを絞った方がよいと思った
- ・資料も頂くことができ、とてもよい講演でした
- ・チュートリアルは無料開催して専門外の研究者/技術者を含め、幅広くより多数の若い参加者を集めていくべき
- ・どの程度黒字があったのか興味あります
- ・また違う先生の講演を聞いてみたい
- ・レーダの電波伝搬に関する話（RCS 測定法、レドームの影響および対策など）
- ・電波信号処理屋向けにアンテナ素子およびアンテナ基板で何が起きているかをわかりやすく説明する講演が聞きたい。空中に出せばフーリエ変換なのでわかりやすいが、基板内での電流がいろいろ悪さをしているようなのに、そのあたりが理解できず、アンテナ屋さんの作った素子を丸のみするしかないところがつらい部分なため
- ・20分もコーヒーブレイク不要だったかも
- ・各テーマの時間はもう少し長いほうがよいと思った 1テーマ 90分~120分で半日で2~3テーマでよいと思う
- ・広川先生の実験器によるデモがよかった
- ・研究会のチュートリアル講演は信学会全員に対して free にしてほしい
- ・このような複数人の著名な研究者のまとめチュートリアル無料は非常に有益だと思います。年2回くらいあっても行きたい
- ・参加費が高くなっても構わないので、講演時間を長くして 今回のようなチュートリアル講演を行ってほしい
- ・最期の説明が長い
- ・私自身が東北からなので開始終了時間を配慮頂けるとうれしい
- ・実習的なセミナーも面白いと思う 例えば今だと、CM 解析をやってみてだんだん折り返しにしてみる
- ・アンテナはまったく初心者（光通信のエンジニア）なので、アンテナのみではなく周辺（ケーブルとの接続）の話も聞ければよい。またアンテナの視点から、周辺は「こうなるとよい こういう課題がある」という声を聞きたい
- ・ありがとうございました
- ・今回無料講演があって参加しやすかった ぜひ無料でつづけてほしい

以上

## 研究会活性化の施策について

### 1. 研究会の評価指標：

研究会活動の主な評価指標は、研究会と大会の発表件数になります。また、通ソからの予算（自由裁量ベース活性化資金）は、各研専の年間登録費・聴講参加費・発表参加費に応じて配分されます。AP 研の活動を活性化していくためには発表件数と参加費の両面から検討していく必要があります。

### 2. 年間登録のお願い：

1年間に2回以上研究会に参加するなら年間登録がお得です。さらに、AP 研の独自施策として、年間登録をしていただくと研究会ライブ配信を視聴することができます。ぜひこの機会に、AP 研に年間登録をお願いいたします。AP 研の年間登録費は6,000円（税別）です。周囲の方への勧誘もお願いします。

### 3. 発表件数増加のための施策：

#### A. 学生と企業の交流セッション

研究会を企業、大学双方の方々にとって魅力のあるものとするため、学生と企業の交流（リクルートを視野にいれた交流）に着目した企画を10月の学生セッションに合わせて実施する予定です。

#### 実施内容

- ・各企業から、企業における事業や研究開発に関してプレゼンし、学生に企業のことをアピールする。発表形式はオーラルセッションを予定。
- ・各学生から研究内容に関してプレゼンし、各企業からの参加者に保有技術をアピールする。発表形式はポスターセッションを予定（参加を容易にするため）。
- ・各学生の発表に対して企業の方々が採点し、上位の学生を表彰する。

#### 専門委員の皆様へのお願い

- ・企業からのプレゼン、および学生のポスターセッションに参加していただける方を募集しますのでご協力をお願いします。
- ・教員の方々には学生の積極的な参加を促していただきますようお願いいたします。

#### B. 専門委員の皆様の研究会への参加

専門委員の皆様によるご発表も積極的にお願ひします。また、専門委員の皆様によるオーガナイズドセッション等の新企画も検討したいと思いますのでご協力お願いいたします。

### 4. その他、皆様からのご意見をお待ちしております。

以上

## 伝搬特性データベース化に向けた活動の提案

2019年6月20日

今井（ドコモ）

2019年信学総大では共通データを用いた電波伝搬モデリングコンペティションを実施したところ、伝搬を専門としない発表者・聴講者も集まり、大いに盛況であった。ここで、参加者が多く集まった理由として、皆が扱える伝搬データを共有したことにあると考える。言い換えれば、誰もが容易に使用できる伝搬データがあれば、伝搬研究の裾野が広がり、AP研のさらなる活性化が期待できる。

以上を鑑みると、AP研内に、伝搬データを収集して一般に公開するような、「伝搬データベース」を構築・管理する組織があることが望ましい。つきましては、このような組織をトライアル的に立ち上げることについてご意見を伺いたい。

### ○活動体制

伝搬データベーストライアル実行委員会（仮称）を組織し、伝搬データベース化に向けた検討を実施する。委員会構成としては、

- ・委員長：唐沢先生
- ・幹事：岩井先生，今井
- ・委員：6名程度

を提案する。

### ○実行委員会の目的

伝搬データベースの構築・管理をトライアル的に実施するとともに、伝搬データのデータベース化の課題・問題点を明確化し、AP研の施策としての実現性・意義について詳細に検討する。最終的には、伝搬データベース実行委員会をAP研内に組織することを目指す。

### ○活動期間：2年（数回／年の開催）

### ○その他

活動内容については、専門委員会にて報告することとする。

以上

## 2018年度第一種研究会運営報告

開催日(仮) 木,木金	予定件数	AP件数	その他	開催場所(支部)	テーマ	併催	共催	会場世話人 (敬称略)	備考	二種研、委員会、大会
4/19, 20	15	12	1	八丈町商工会 (東京)	一般		IEEE AP-S Tokyo Chapter	木村 (埼玉大)		
5/17, 18	20	24	1	熊本大 (九州)	一般, 電波伝 搬		IEEE AP-S Fukuoka Chapter URSI-F	福迫 (熊本大)	電波伝搬オーガ ナイズドセッション	5/10 AP研各種委員会(東工 大) 5/30-6/1 VJISAP2018 (Da Nang, Vietnam)
6/21	10	7	0	機械振興会館 (東京)	一般		IEEE AP-S Tokyo Chapter	木村 (埼玉大)	専門委員会 顧問会	6/29 AMT研(東京・神田神保 町)
7/18, 19, 20	20	19	2	北大 (北海道)	一般, リモート センシング, 衛 星通信	SANE研, SAT 研 (AP研主幹事)	IEEE AP-S Tokyo Chapter URSI-F	山本 (北大)		7/25-27 AWAP2018(Pattaya, Thailand)
8/23, 24	20	14	1	日本工大 (東京)	一般		IEEE AP-S Tokyo Chapter	竹村 (日本工大)		
9/20, 21	20	8	1	東工大 (東京)	一般, マイクロ 波・ミリ波	MW研 (AP研主幹事)	IEEE AP-S Tokyo Chapter	広川 (東工大)		9/11-14 ソサエティ大会(金 沢大) 9/15 AP研拡大執行委員会
10/18, 19	20	14	1	岡山大 (中国)	一般		IEEE AP-S Kansai Chapter URSI-F	藤森 (岡山大)	学生特集オーガ ナイズドセッション	
11/20, 21, 22	25	38	1	沖縄産業支援センター (九州)	一般, 無線通 信	RCS研 (RCS研主幹 事)	IEEE AP-S Fukuoka Chapter	木村 (埼玉大)		11/1 AP研各種委員会(東工 大)
12/13	10	6	4	機械振興会館 (東京)	一般		IEEE AP-S Tokyo Chapter	木村 (埼玉大)	専門委員会 顧問会	12/6-7 AMT研(奄美)
1/17, 18	20	22	1	トヨタ博物館 (東海)	一般, 電力伝 送, 電波伝搬	WPT研 (WPT研主幹 事)	IEEE AP-S Nagoya Chapter URSI-F	松沢 (豊田中研)	電波伝搬オーガ ナイズドセッション	(1/19-20 センター試験)
2/21, 22	15	16	1	住友電工 (大阪製作所) (関西)	一般, 企業特 集		IEEE AP-S Knsai Chapter	山岸 (住友電工)	企業特集オーガ ナイズドセッション	
3/14, 15	15	12	1	旅館 湯乃家 (福島・飯坂温泉) (東北)	一般		IEEE AP-S Tokyo Chapter	木村 (埼玉大)		3/13 AMT研(福島) 3/15? AP研拡大執行委員会 3/19-22 総合大会(早大)
合計	210	192	15							

## 2018年度AP研第一種研究会 Web 配信状況報告

2018年度AP研第一種研究会 Web 配信状況を以下の通り報告する。

## 1. 配信状況

配信件数は以下の通り。

開催月、場所	発表件数	フル配信	音声のみ	配信無	他研専等	配信率(フル+音声)	備考
	[件]	[件]	[件]	[件]	[件]	[%]	
2018年6月会館	7	6	0	1	0	85.7	
2018年7月札幌	40	15	2	11	12	42.5	SAT/SANE共催
	7/18(水)	13	4	1	4	4	38.5
	7/19(木)	13	8	1	1	3	69.2
	7/20(金)	14	3	0	6	5	21.4
2018年8月日工大	15	9	1	5	0	66.7	
	8/23(木)	10	4	1	5	0	50.0
	8/24(金)	5	5	0	0	0	100.0
2018年9月東工大	20	6	0	3	11	30.0	MW研共催
	9/20(木)	7	3	0	1	3	42.9
	9/21(金)	13	3	0	2	8	23.1
2018年10月岡山	14	10	0	4	0	71.4	
	10/18(木)	6	3	0	3	0	50.0
	10/19(金)	8	7	0	1	0	87.5
2018年11月沖縄	46	23	1	22	0	52.2	RCS研共催 別会場のRCS研は除く
	11/20(火)	13	9	1	3	0	76.9
	11/21(水)	16	9	0	7	0	56.3
	11/22(木)	17	5	0	12	0	29.4
2018年12月会館	6	3	1	2	0	66.7	
2019年1月トヨタ博物館	29	16	0	7	6	55.2	WPT共催
	1/17(木)	12	8	0	3	1	66.7
	1/18(金)	17	8	0	4	5	47.1
2019年2月住友電工	17	10	1	6	0	64.7	
	2/21(木)	7	5	0	2	0	71.4
	2/22(金)	10	5	1	4	0	60.0
2019年3月飯坂温泉	13	4	0	9	0	30.8	
	3/14(木)	6	1	0	5	0	16.7
	3/15(金)	7	3	0	4	0	42.9
2019年5月有馬温泉	16	11	0	5	0	68.8	
	5/16(木)	7	4	0	3	0	57.1
	5/17(金)	9	7	0	2	0	77.8
2018年度合計	223	113	6	75	29	53.4	

- ・他研専との共催時は配信件数の割合が低い傾向
- ・平均的には半分くらいが配信を実施している。



## 2. 視聴状況

開催月、場所	日付	案内者数 (年間登録 者数)	最大同時 視聴者数	同時視聴者数 最大講演	備考
		[件]	[件]	(発表者名)	
2018年6月会館	6/21(木)	80	12	新潟大 西森先生	
2018年7月札幌	7/18(水)	84	5	北海学園大 笹森先生 ※チュートリアル講演	SAT/SANE共催
	7/19(木)	84	8	同志社大 伊藤様	
	7/20(金)	84	4	新潟大 谷口様	
2018年8月日工大	8/23(木)	89	7	日工大 市川様	
	8/24(金)	89	6	新潟大 西森先生	
2018年9月東工大	9/20(木)	100	5	新潟大 西森先生	MW研共催
	9/21(金)	100	6	北大 西村先生 ※チュートリアル講演	
2018年10月岡山	10/18(木)	100	9	NTTドコモ 今井様	
	10/19(金)	100	7	岩手大 本間先生 ※チュートリアル講演	
2018年11月沖縄	11/20(火)	104	7	岩手大 川越様	RCS研共催
	11/21(水)	104	10	新潟大 西森先生	
	11/22(木)	104	8	ソフトバンク 豊見本様	
2018年12月会館	12/13(木)	106	4	富山大 生川様	
2019年1月トヨタ博物館	1/17(木)	109	12	金沢工大 野口先生 (チュートリアル講演)	WPT併催
	1/18(金)	109	11	名工大 横井様	
2019年2月住友電工	2/21(木)	109	8	NEC平部様	
	2/22(金)	109	7	福井高専 川上先生	
2019年3月飯坂温泉	3/14(木)	111	4	横浜国立大 橋口様 東工大 斎藤先生 (チュートリアル講演)	AP-NET登録者無料案内
	3/15(金)	111	14	新潟大 西森先生	
2019年5月有馬温泉	5/16(木)	64	8	ソフトバンク 山口様 東工大 広川先生	AP-NET登録者無料案内
	5/17(金)	64	11	京大 阪本先生 (チュートリアル講演) 新潟大 西森先生	
2018年度合計			173	1日当たりの平均視聴者数	7.9

- ・一日当たりの視聴者数は4人～14人（平均8名）実際には2名程度マイナス
- ・チュートリアル講演は人気が高い傾向あり

## 2018年度 無線端末・アンテナシステム測定技術研究会（AMT研）活動報告

2019.6.7 作成

AMT研幹事 飴谷, 柳

## 1. 2018年度研究会開催報告

研究会番号	開催日	開催場所	テーマ	発表件数	参加者数
15	2018年6月29日(金)	神保町貸会議室 (東京都千代田区) 電気学会計測研究会と連催	一般	4	21
16	2018年12月6日(木)	奄美市 AiAi ひろば (鹿児島県奄美市)	一般	6	13
17	2019年3月14日(木)	旅館 湯乃家 (福島県福島市)	標準化および 5G測定方法, 一般	4	12

- ・ 発表申込み：研究会発表申込みシステムの利用
- ・ 予稿集：1,000円当日頒布
- ・ 協賛団体：IEEE AP-S Tokyo/ Fukuoka Chapter および産総研 物理計測標準研究部門

## 2. 2018年度チュートリアルワークショップの開催

回	開催日	開催場所	参加人数
17	2018年12月7日(金)	奄美市 AiAi ひろば (鹿児島県奄美市)	12

- ・ 参加費（資料代を含む）：5,000円
- ・ 協賛団体：IEEE AP-S Fukuoka Chapter および産総研 物理計測標準研究部門
- ・ テーマおよび講師  
[第17回] 本間尚樹講師「MIMO アンテナの測定」  
※「名瀬気象レーダーの見学」も同時開催

## 3. 決算報告

- ・ 次ページの通り.
- ・ 収入は前年度余剰金, 研究会資料販売, TWS 参加費収入による.
- ・ 主な支出は会議費, 会場費, 交通費, TWS 謝金である.

## 2018年度 AMT 研会計 決算報告

		2019年3月31日現在	
委員会名：アンテナ・伝播研究専門委員会（AP） 無線端末・アンテナシステム測定技術研究会実行委員会（AMT）			
委員長名（所属）：笹森 崇行（北海学園大）			
幹事名（所属）：飴谷 充隆（産業技術総合研究所）、柳 崇（三菱電機）			
期間：2018年度（2018.4.1～2019.3.31）			
収入：		予算	決算
前年度余剰金		309,619	309,619
第二種研究会予稿集収入 （6/29，東京，1000円×19名） （12/6，奄美大島，1000円×12名） （3/14，福島，1000円×12名）		45,000	43,000
TWS参加費収入 （12/7，奄美大島，5000円×8名，3000円×4名）		90,000	52,000
AMT研アーカイブ販売		150,000	0
（今期収入合計）		(285,000)	(95,000)
<合計>		<b><u>594,619</u></b>	<b><u>404,619</u></b>
支出：			
実行委員会会議費		40,000	49,920
資料作成および会場受付アルバイト		30,000	3,030
会場費（研究会3回，TWS1回） （6/29，東京，会場利用料） （12/6，奄美大島，会場利用料） （3/14，福島はAP研と同会場利用のため支出なし）		150,000	33,180
TWS謝金		90,000	22,274
交通費（TWS見学会関連）		0	27,000
銀行振り込み手数料		2,000	648
次年度への繰り越し		282,619	268,567
<合計>		<b><u>594,619</u></b>	<b><u>404,619</u></b>
残高		<b>0</b>	<b>0</b>

TWS = チュートリアルワークショップ

## 4. 実行委員会構成（2018年度）

AMT 研実行委員会 構成

役職	氏名	所属	任期
委員長	笹森 崇行	北海学園大学	2020年3月まで
幹事	飴谷 充隆	産業技術総合研究所	2019年3月まで
	柳 崇	三菱電機(株)	2020年3月まで,新任
実行委員 (五十音順)	石井 望	新潟大学	2020年3月まで
	岡田 真優	(株)東陽テクニカ	2020年3月まで,新任
	緒方 健二	直鞍産業振興センター ADOX福岡	2020年3月まで,新任
	木村 泰子	(株)NTTドコモ	2020年3月まで,新任
	久保田 文人	(一財)テレコムエンジニアリングセンター	2020年3月まで
	小林 敏幸	日本電業工作(株)	2020年3月まで,新任
	佐々木 元晴	NTT(株)	2020年3月まで,新任
	佐藤 啓介	電気興業(株)	2020年3月まで,新任
	高橋 応明	千葉大学	2020年3月まで
	田端 隆伸	小島プレス工業(株)	2020年3月まで,新任
	中林 寛暁	千葉工大	2020年3月まで,新任
	野田 華子	アンリツ(株)	2019年3月まで
	浜田 リラ	情報通信研究機構	2020年3月まで,新任
	平野 拓一	東京都市大学	2020年3月まで,新任
	平部 正司	日本電気(株)	2020年3月まで
	道下 尚文	防衛大学校	2020年3月まで,新任
	山口 良	ソフトバンク(株)	2020年3月まで
本間 尚樹	岩手大学	2020年3月まで,新任	
顧問	笹岡 秀一	同志社大学	
	新井 宏之	横浜国立大学	
	黒川 悟	産業技術総合研究所	

※顧問については、委員長・副委員長退任後に2年間委員を務めることでAMT研の顧問の処遇とする。

以上